

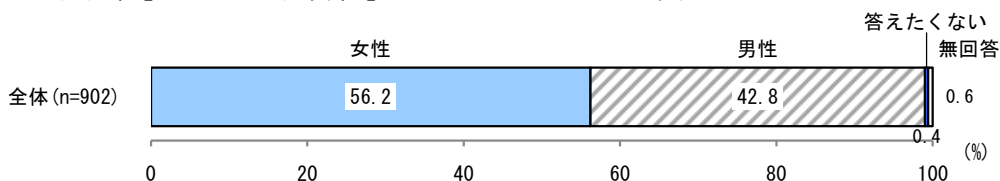
II 調査結果

1. あなた自身のことについて

問1 性別

問1 あなたの性別は。(〇は1つ)

・性別については、「女性」が56.2%、「男性」が42.8%となっています。

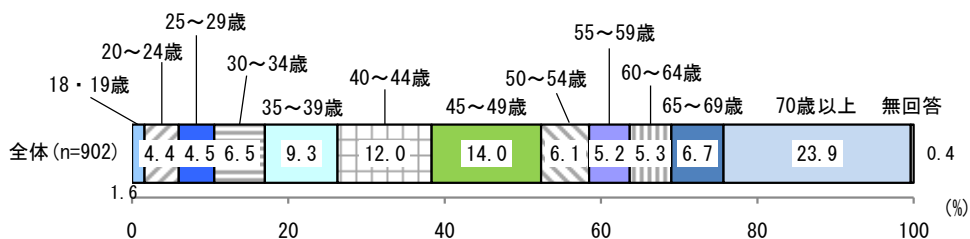


問2 年齢

問2 あなたの年齢は。(〇は1つ)

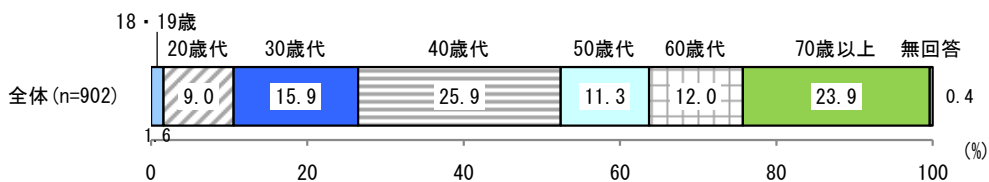
<年齢>

・年齢については、「70歳以上」が23.9%と最も高く、次いで「45～49歳」が14.0%、「40～44歳」が12.0%となっています。

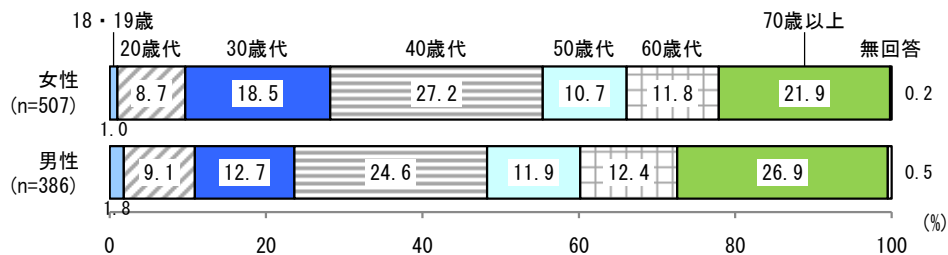


<年代>

・年代については、「40歳代」が25.9%と最も高く、次いで「70歳以上」が23.9%、「30歳代」が15.9%となっています。



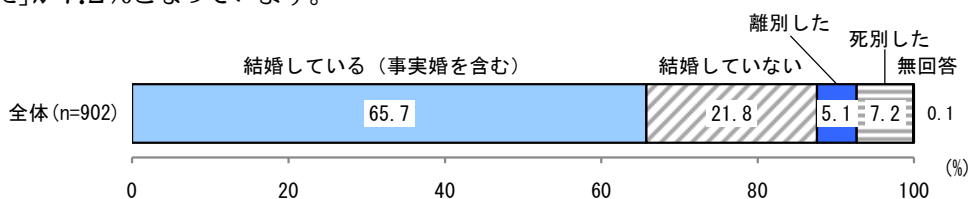
・性別にみると、女性は男性よりも「30歳代」の割合が5.8ポイント高くなっています。



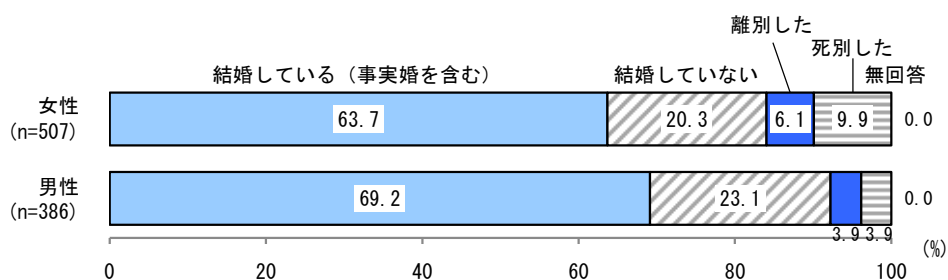
問3 結婚の有無

問3 現在、あなたは結婚(事実婚を含む)していますか。(〇は1つ)

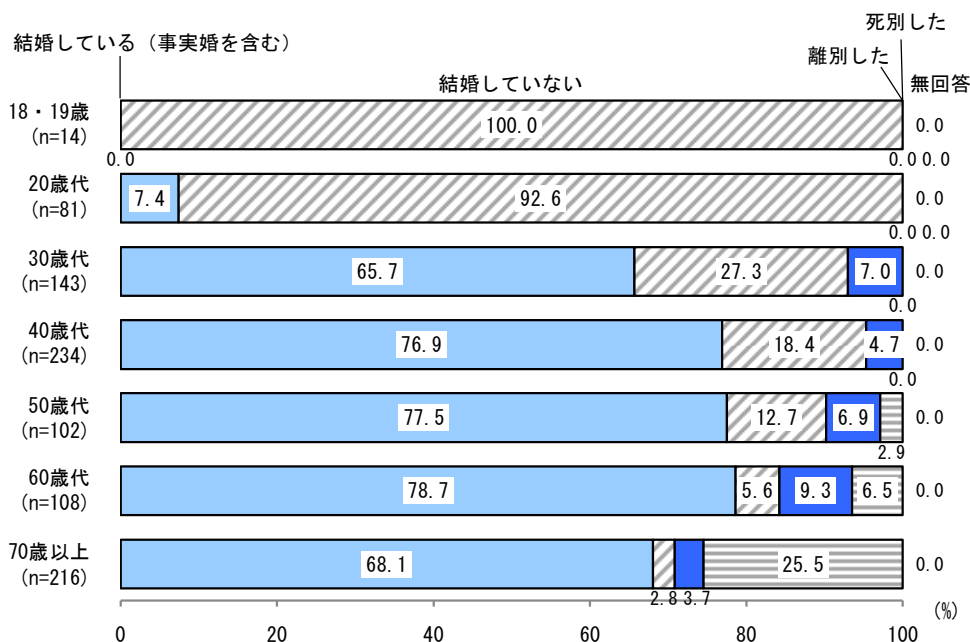
・結婚の有無については、「結婚している(事実婚を含む)」が65.7%と最も高く、次いで「結婚していない」が21.8%、「死別した」が7.2%となっています。



・性別にみると、男性は女性よりも「結婚している(事実婚を含む)」の割合が5.5ポイント高くなっています。



・年代別にみると、30歳以上で「結婚している(事実婚を含む)」の割合が高く、60歳代で78.7%となっています。



問4 職業

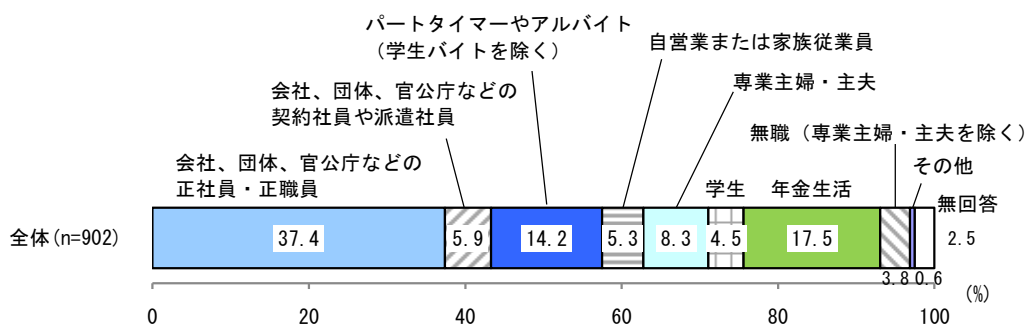
問4 あなたとあなたの配偶者・パートナー(事実婚を含む)の職業をお答えください。

配偶者・パートナーがいない方は、ご自身の欄だけ記入してください。

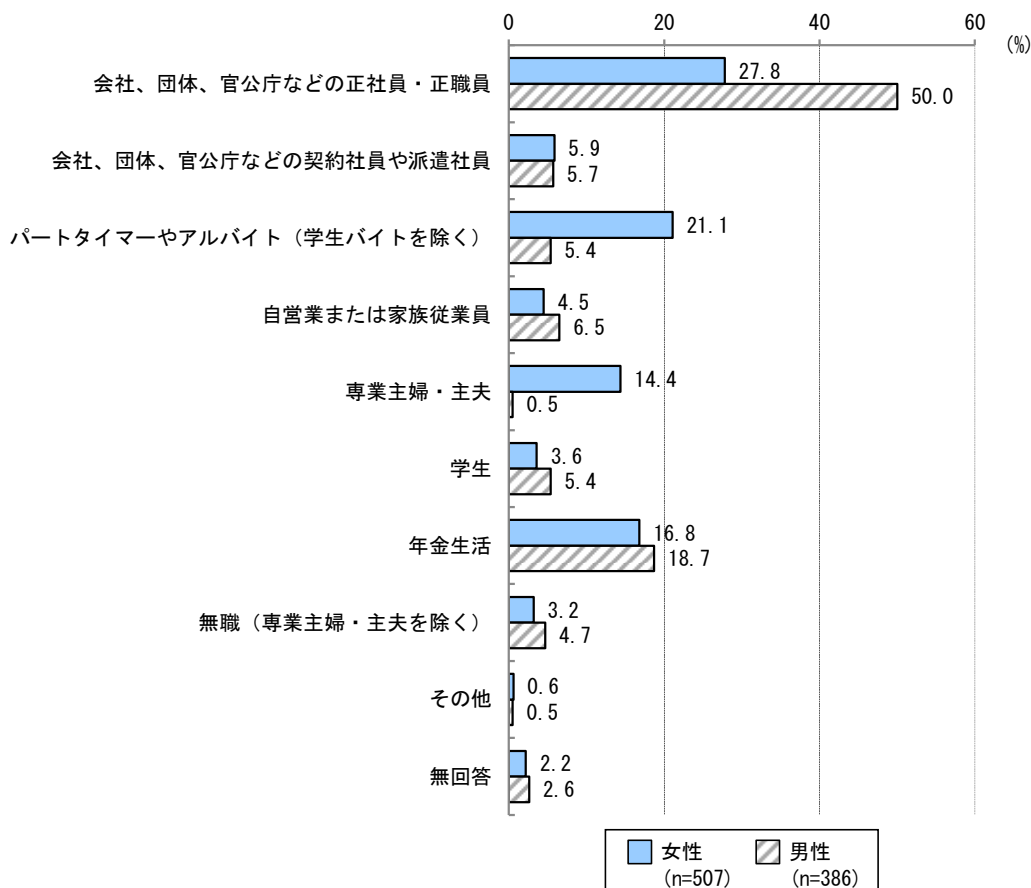
(1つに○、またはそれぞれに○は1つ)

<① あなたの職業>

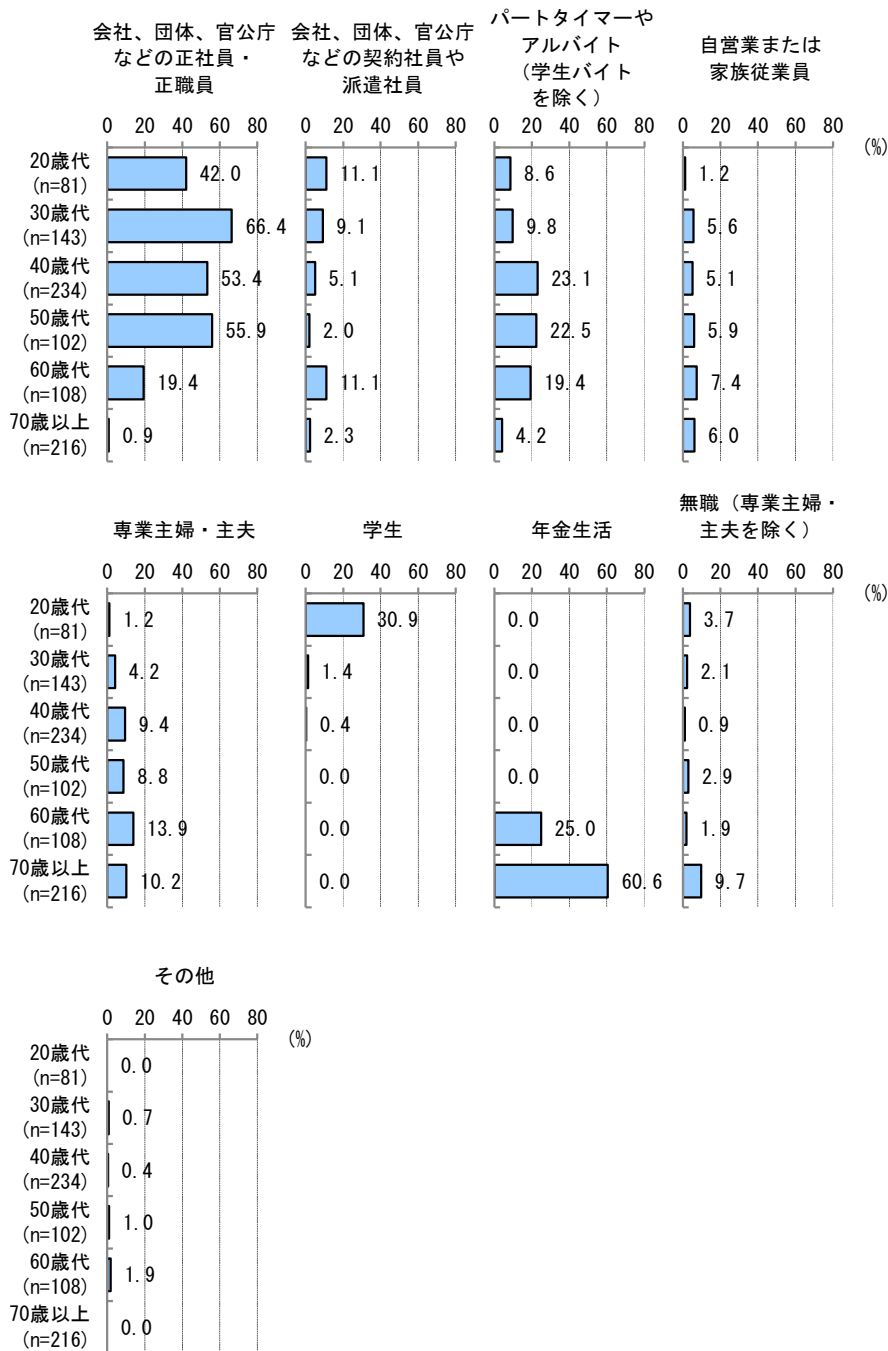
・回答者の職業については、「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」が37.4%と最も高く、次いで「年金生活」が17.5%、「パートタイマーやアルバイト(学生バイトを除く)」が14.2%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「パートタイマーやアルバイト(学生バイトを除く)」の割合が15.7ポイント高く、「専業主婦・主夫」の割合が13.9ポイント高くなっています。また、男性は女性よりも「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」の割合が22.2ポイント高くなっています。

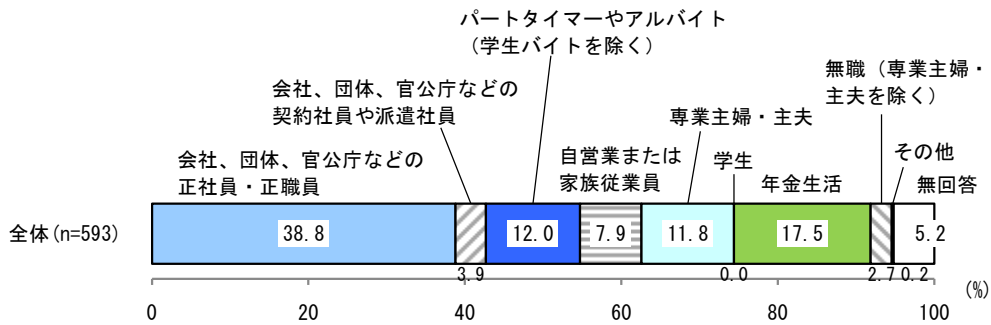


・年代別にみると、30～50歳代で「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」、40～60歳代で「パートタイムやアルバイト(学生アルバイトを除く)」、60～70歳以上で「年金生活」の割合が高くなっています。

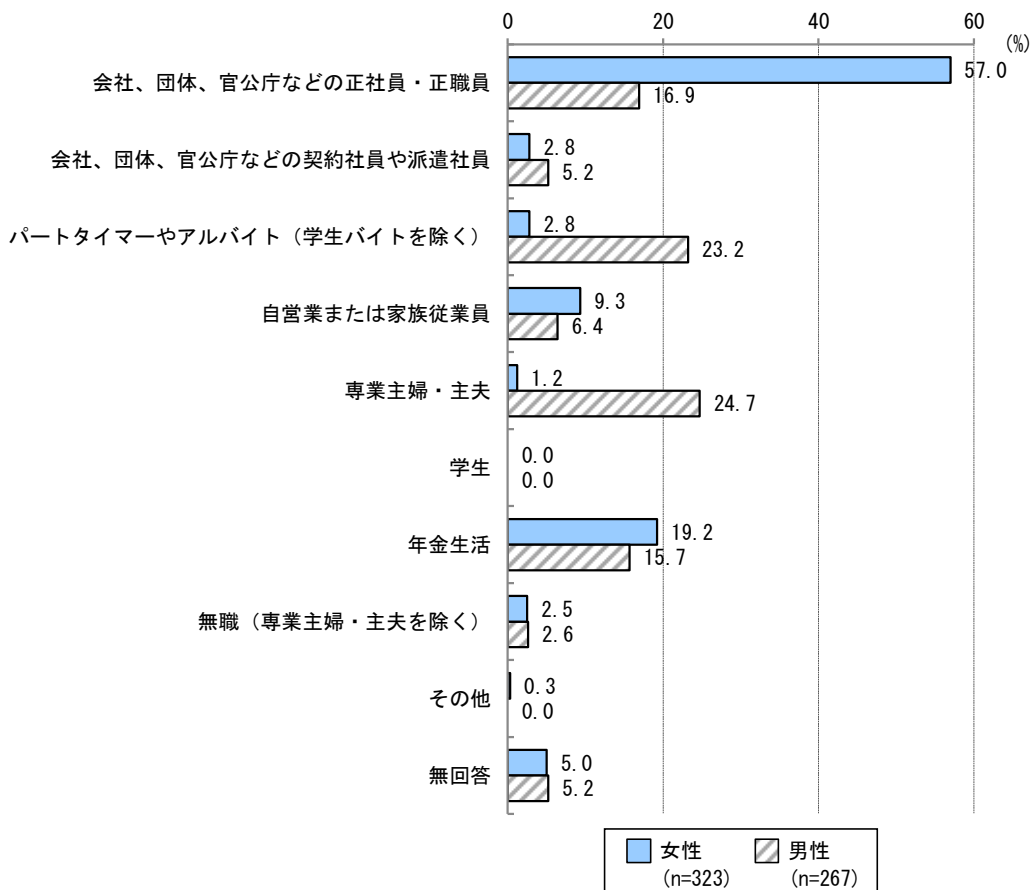


<② あなたの配偶者・パートナーの職業>

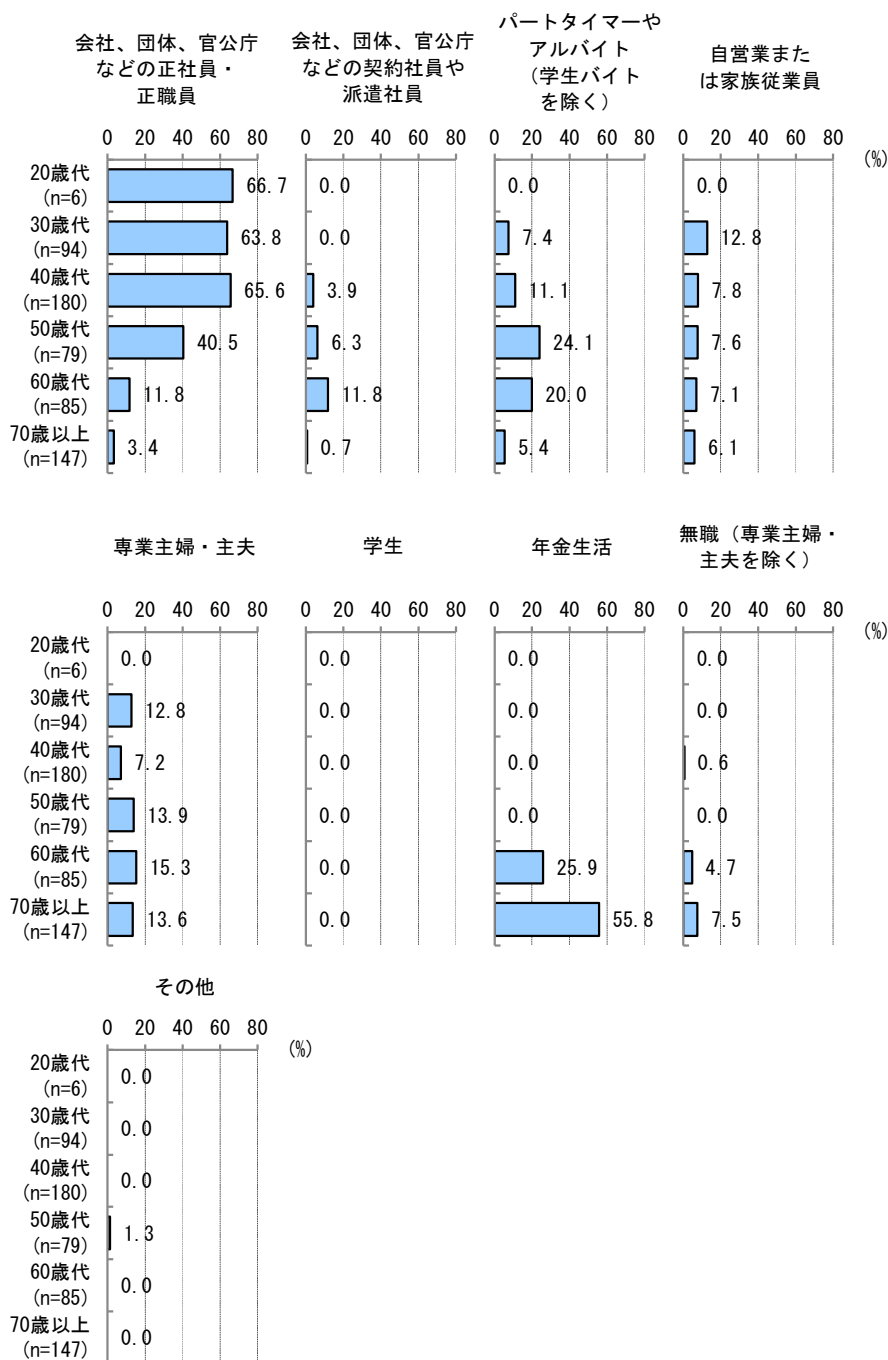
・回答者の配偶者・パートナーの職業については、「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」が38.8%と最も高く、次いで「年金生活」が17.5%、「パートタイマーやアルバイト(学生バイトを除く)」が12.0%となっています。



・性別にみると、女性回答者のパートナーは男性よりも「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」の割合が40.1ポイント高くなっています。また、男性回答者のパートナーは女性よりも「パートタイマーやアルバイト(学生バイトを除く)」の割合が20.4ポイント高く、「専業主婦・主夫」の割合は23.5ポイント高くなっています。



・年代別にみると、回答者本人の職業と傾向が似ており、30～40歳代で「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」、50～60歳代で「パートタイマーやアルバイト(学生アルバイトを除く)」、60～70歳以上で「年金生活」の割合が高くなっています。



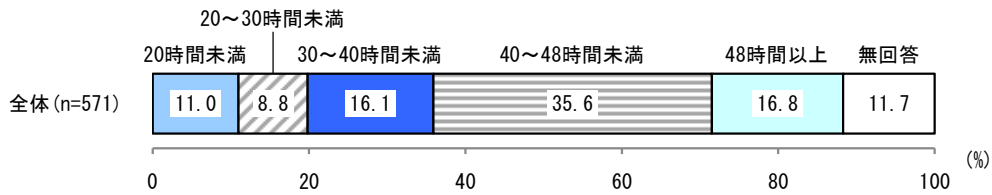
※18・19歳は該当者がいないため掲載していません。

問5 1週間の就業時間

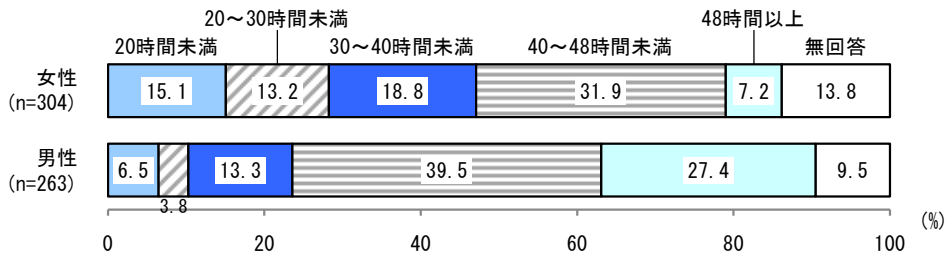
【問5～問7は、問4の①で「1.会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」～「4. 自営業または家族従業員」、
「9.その他」と答えた方におたずねします。】

問5 1週間のうちで、あなたが仕事(在宅就労を含む)をしている平均時間はどのくらいですか。
(○は1つ)

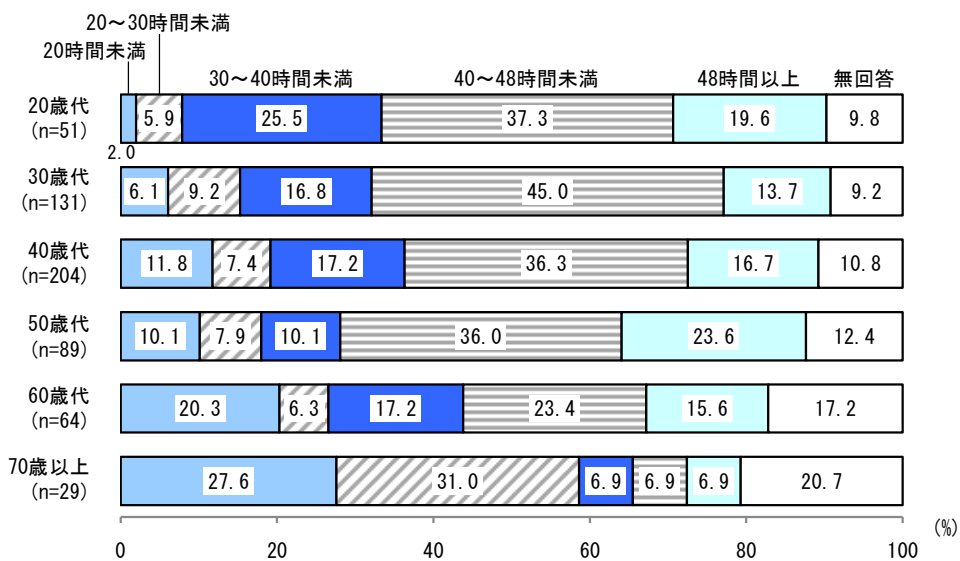
・1週間の就業時間については、「40～48時間未満」が35.6%と最も高く、次いで「48時間以上」が16.8%、「30～40時間未満」が16.1%となっています。



・性別にみると、女性は男性より労働時間が短い傾向にあり、「20時間未満」の割合が8.6ポイント高く、「20～30時間未満」の割合が9.4ポイント高くなっています。一方で、男性は女性より労働時間が長い傾向にあり、「48時間以上」の割合が20.2ポイント高くなっています。



・年代別にみると、年代が上がるほど「20時間未満」の割合も高くなっています。一方で、「30～40時間未満」、「40～48時間未満」、「48時間以上」の割合は概ね若い年代ほど高い傾向にあります。



・性年代別にみると、女性60歳代で「20時間未満」の割合が42.9%となっている一方で、男性60歳代では40.1ポイント低くなっています。また、男性60歳代で「40～48時間未満」の割合が38.9%となっている一方で、女性60歳代では35.3ポイント低くなっています。

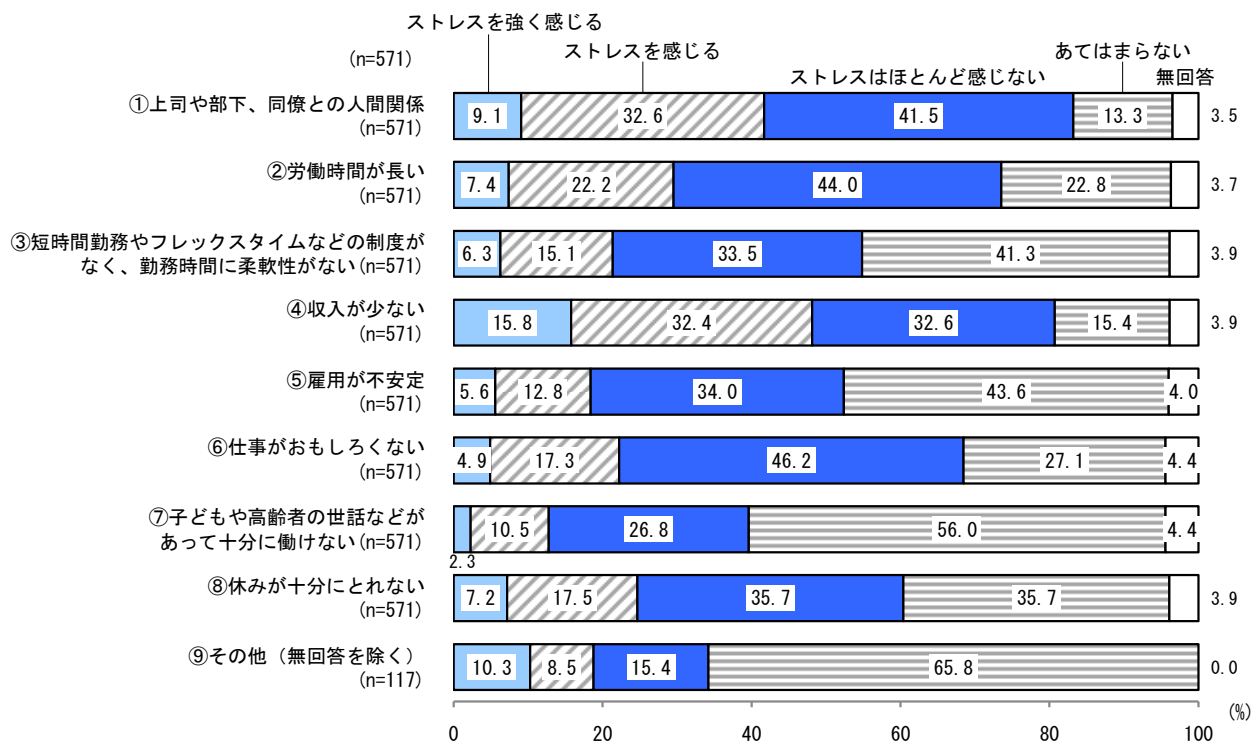
(%)

	全 体	2 0 時 間 未 満	2 0 ～ 3 0 時 間 未 満	3 0 ～ 4 0 時 間 未 満	4 0 ～ 4 8 時 間 未 満	4 8 時 間 以 上	無 回 答
全 体	571	11.0	8.8	16.1	35.6	16.8	11.7
女性18・19歳	-	-	-	-	-	-	-
女性20歳代	28	-	10.7	28.6	42.9	7.1	10.7
女性30歳代	85	7.1	12.9	20.0	44.7	5.9	9.4
女性40歳代	111	17.1	12.6	20.7	28.8	8.1	12.6
女性50歳代	44	18.2	15.9	9.1	27.3	9.1	20.5
女性60歳代	28	42.9	7.1	17.9	3.6	7.1	21.4
女性70歳以上	7	14.3	42.9	-	14.3	-	28.6
男性18・19歳	-	-	-	-	-	-	-
男性20歳代	21	4.8	-	23.8	33.3	28.6	9.5
男性30歳代	46	4.3	2.2	10.9	45.7	28.3	8.7
男性40歳代	92	5.4	1.1	13.0	44.6	27.2	8.7
男性50歳代	44	2.3	-	11.4	43.2	38.6	4.5
男性60歳代	36	2.8	5.6	16.7	38.9	22.2	13.9
男性70歳以上	22	31.8	27.3	9.1	4.5	9.1	18.2

問6 仕事でのストレス

問6 あなたは、いまの仕事でストレス(不安や悩み)を感じていますか。①～⑨の項目ごとにあてはまる番号に○をしてください。(①～⑨の項目ごとに○は1つずつ)

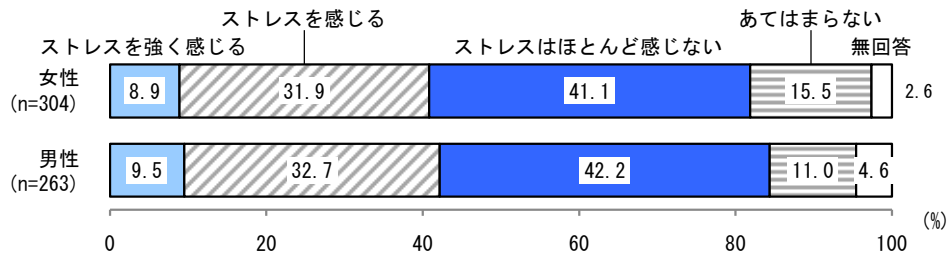
・仕事でのストレスについては、「ストレスを強く感じる」と「ストレスを感じる」を合わせた『ストレスを感じる』は「④収入が少ない」で48.2%と最も高く、次いで「①上司や部下、同僚との人間関係」で41.7%、「②労働時間が長い」で29.6%となっています。



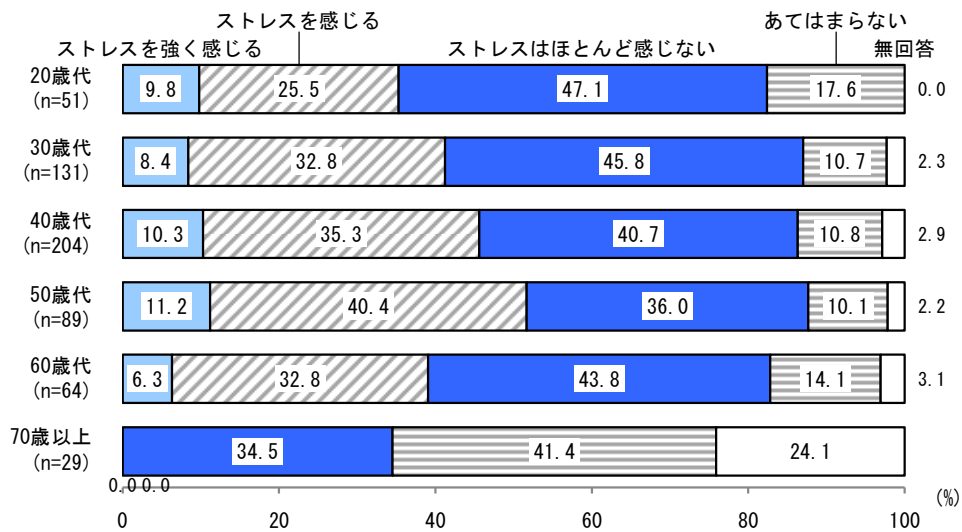
※「⑨その他」については、無回答の方が全体の79.5%を占めているため、見やすさを考慮して「無回答」を含めずにグラフを作成しております。

<①上司や部下、同僚との人間関係>

・性別による大きな差はありません。

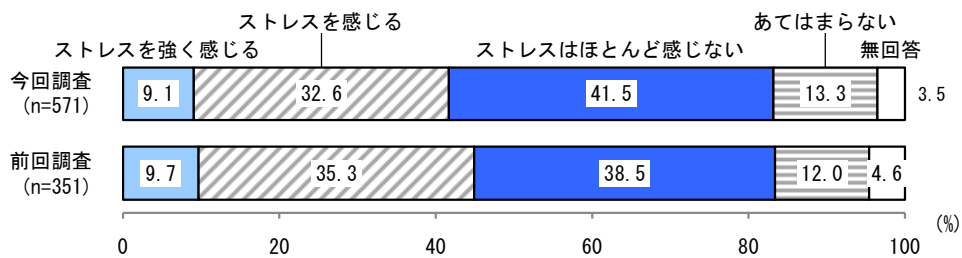


・年代別にみると、50歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、51.6%となっています。



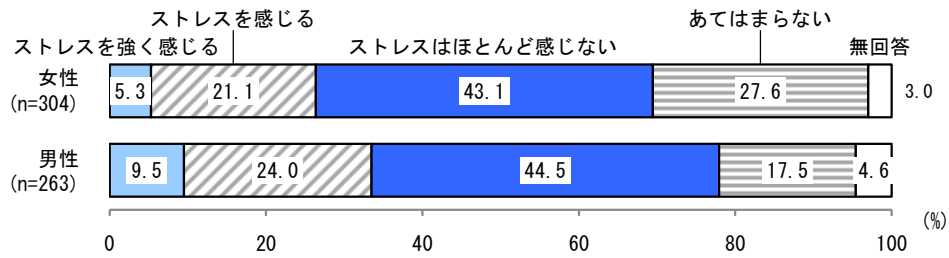
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

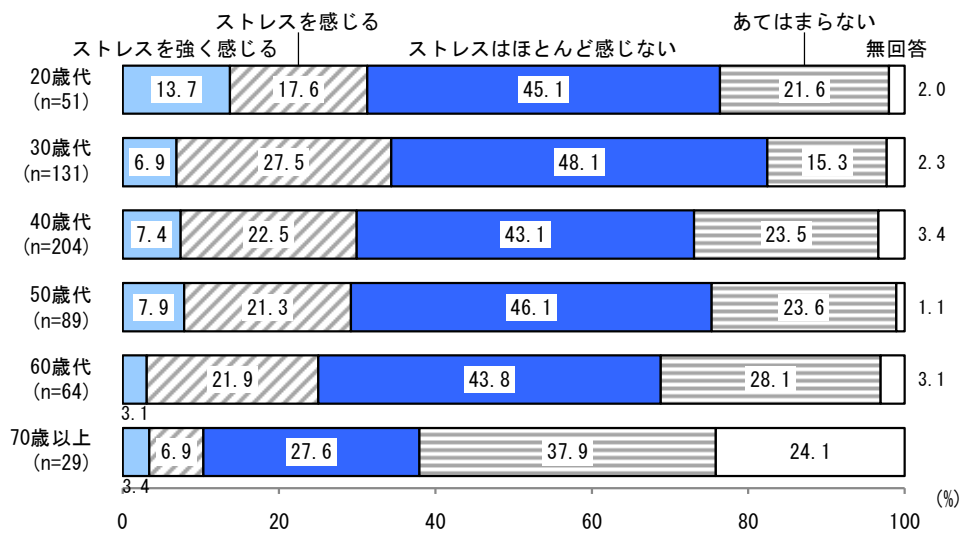


<②労働時間が長い>

・性別にみると、男性は女性よりも『ストレスを感じる』の割合が7.1ポイント高くなっている一方で、女性は男性よりも「あてはまらない」の割合が10.1ポイント高くなっています。

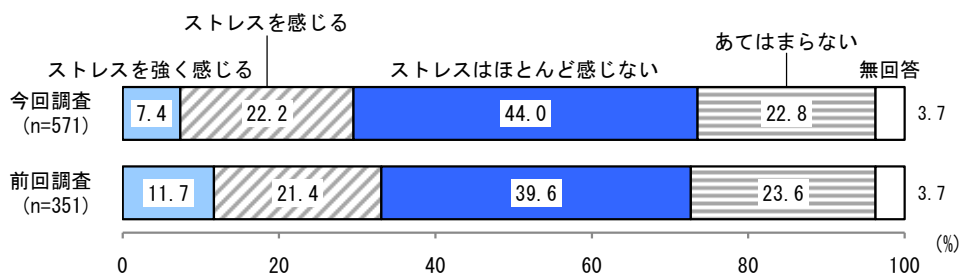


・年代別にみると、30歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、34.4%となっています。



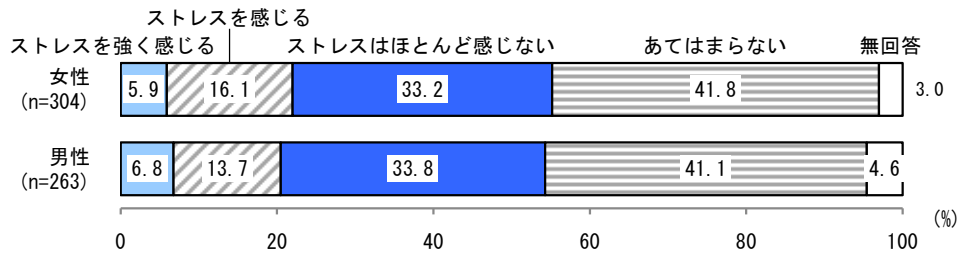
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

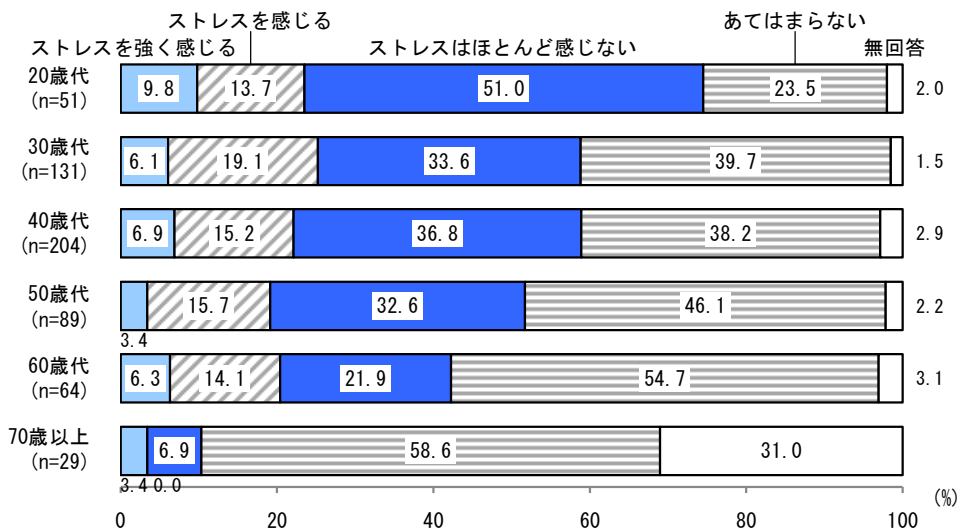


<③短時間勤務やフレックスタイムなどの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない>

・性別による大きな差はありません。

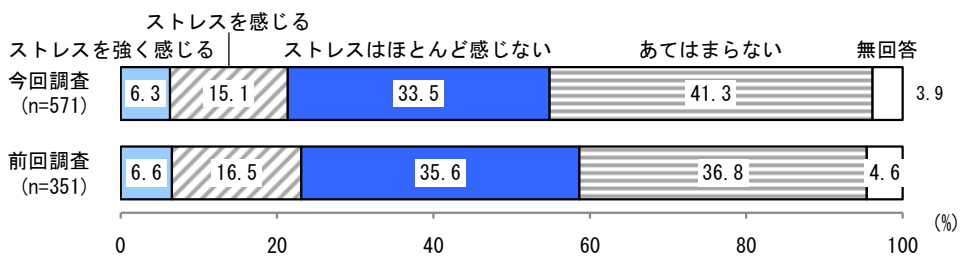


・年代別にみると、30歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、25.2%となっています。



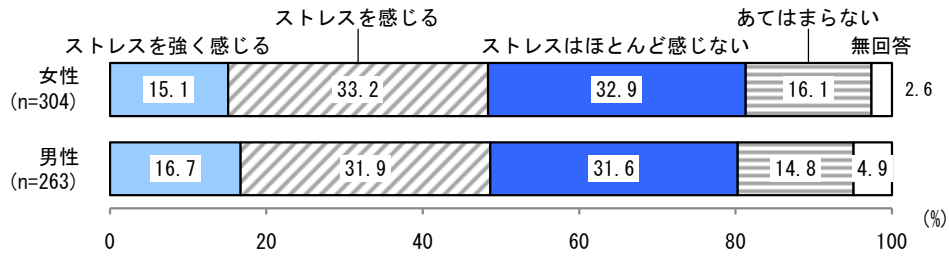
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

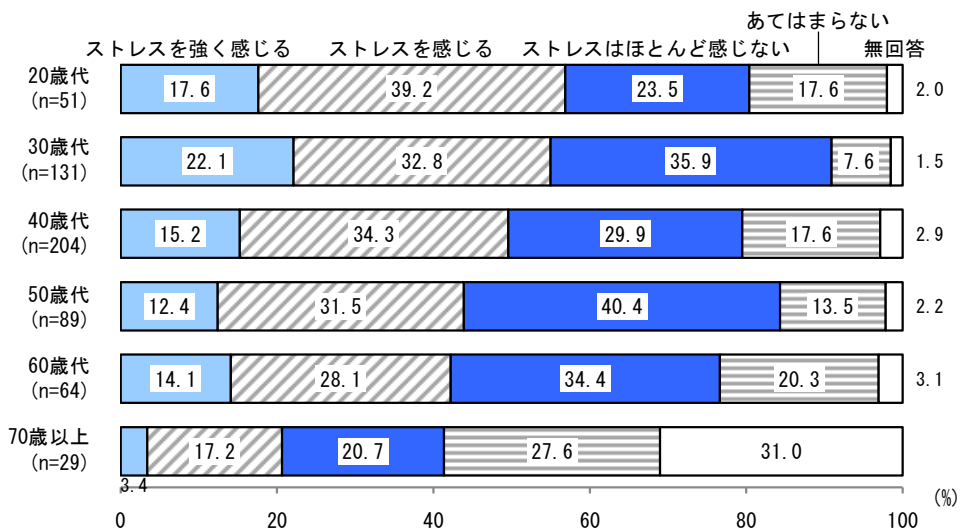


<④収入が少ない>

・性別による大きな差はありません。

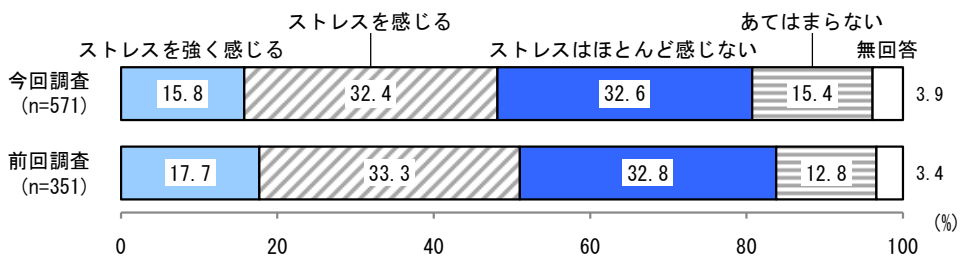


・年代別にみると、若い年代ほど『ストレスを感じる』の割合は高くなっており、20歳代では56.8%となっています。



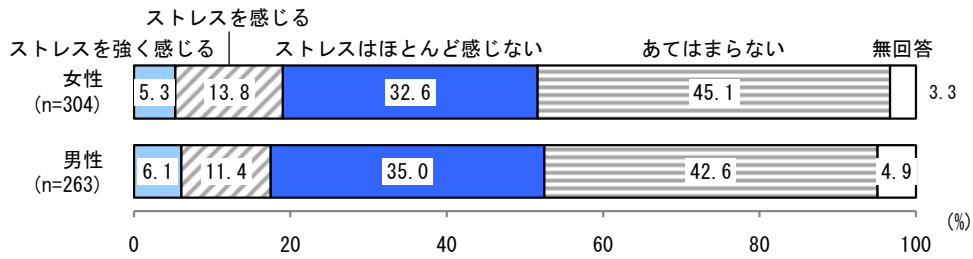
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

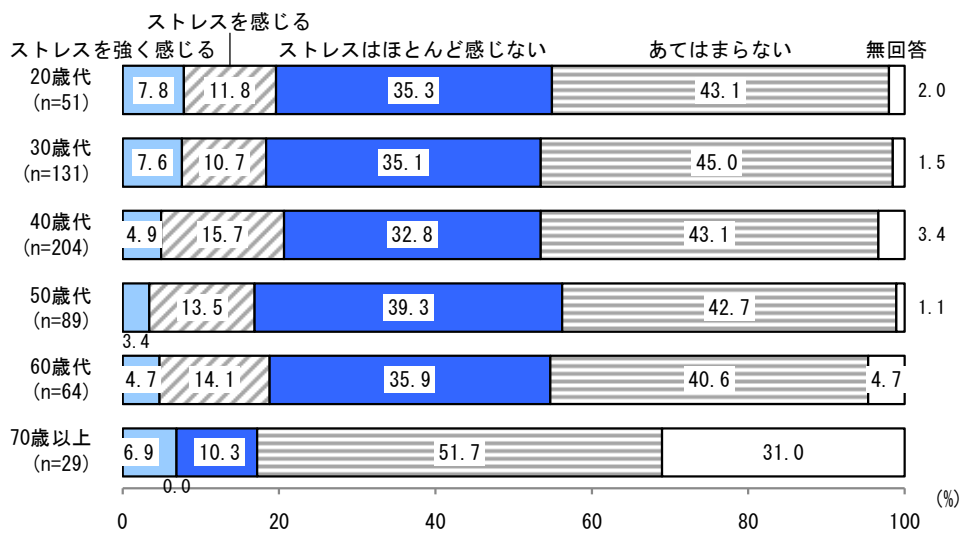


<⑤雇用が不安定>

・性別による大きな差はありません。

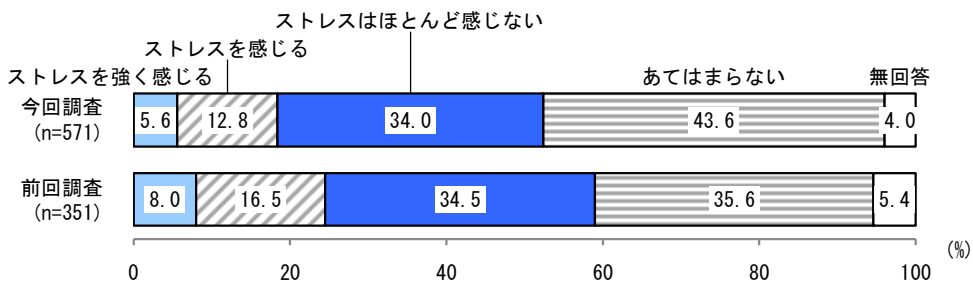


・年代別にみると、40歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、20.6%となっています。また、全ての年代で「あてはまらない」の割合が40%を超えています。



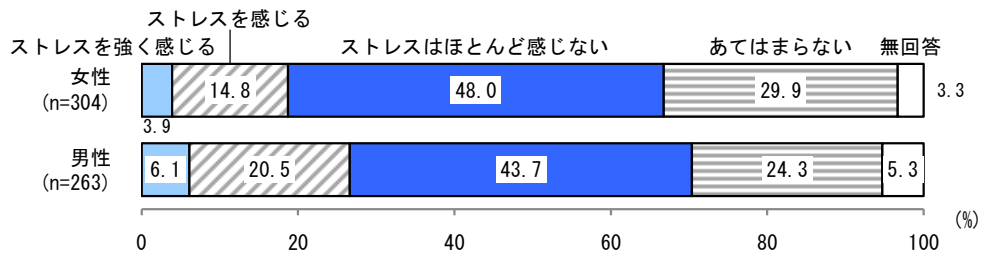
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「あてはまらない」の割合が8.0ポイント高くなっています。

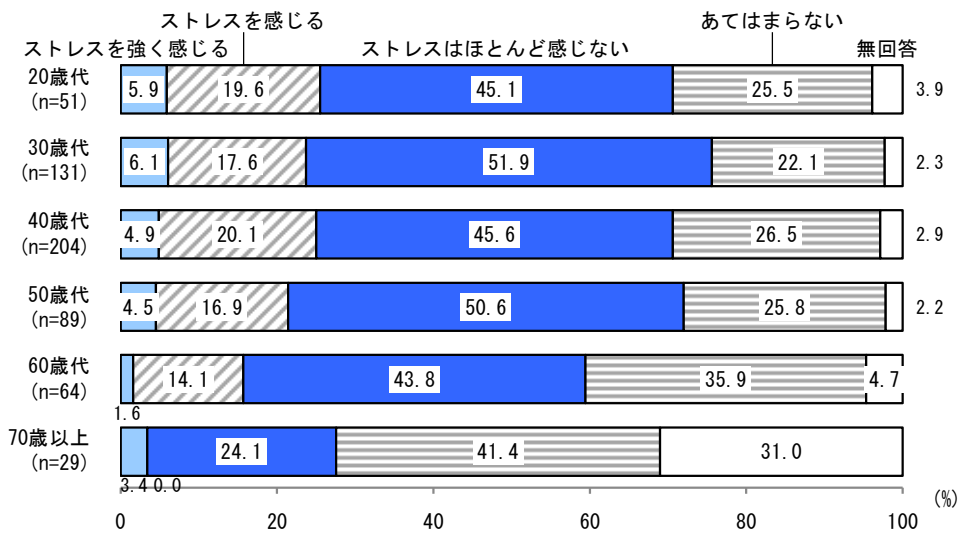


<⑥仕事がおもしろくない>

・性別にみると、男性は女性よりも『ストレスを感じる』の割合が7.9ポイント高い一方で、女性は男性よりも「あてはまらない」の割合が5.6ポイント高くなっています。

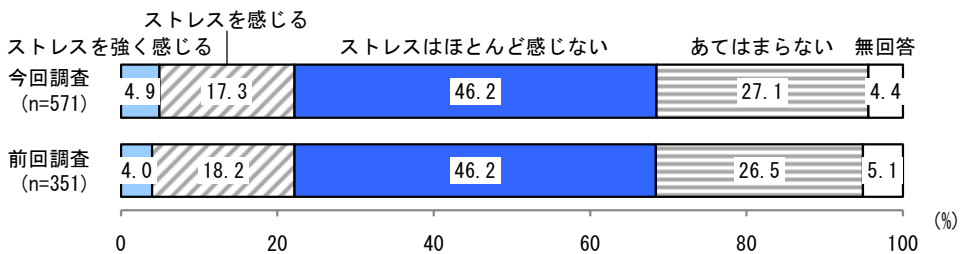


・年代別にみると、20歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、25.5%となっています。また、20～60歳代では、「ストレスはほとんど感じない」の割合が40%を超えています。



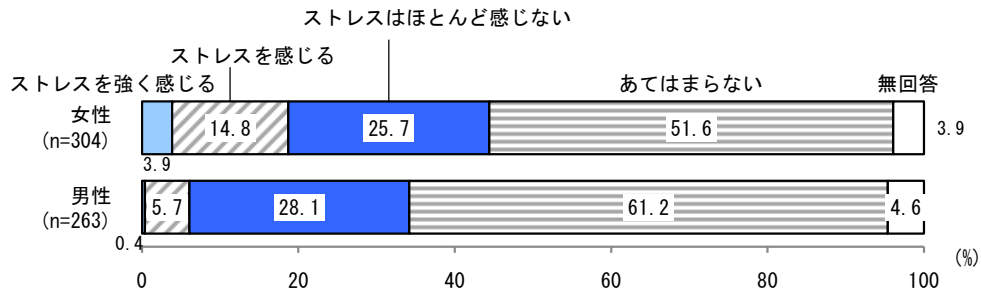
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

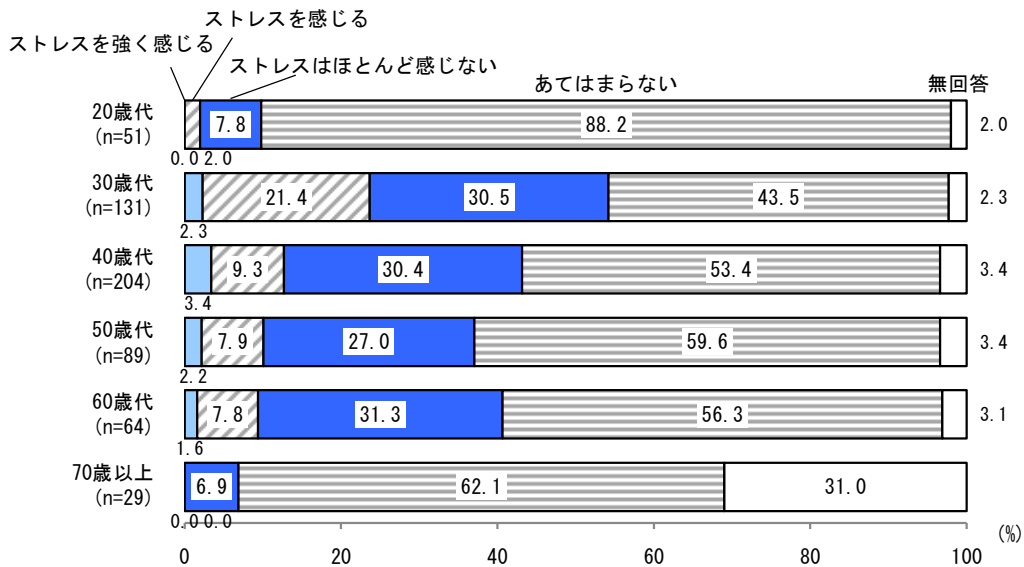


<⑦子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない>

・性別にみると、女性は男性よりも『ストレスを感じる』の割合が12.6ポイント高い一方で、男性は女性よりも「あてはまらない」の割合が9.6ポイント高くなっています。

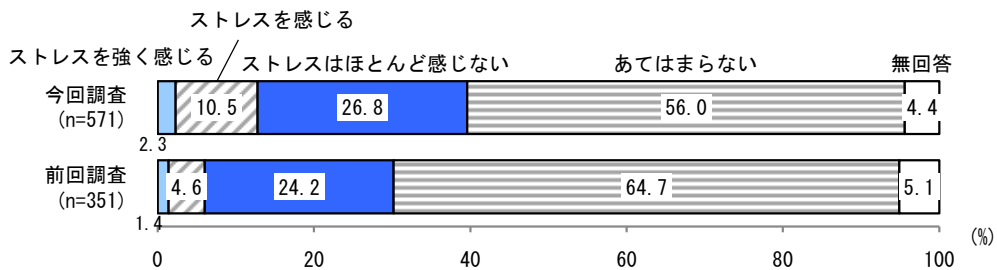


・年代別にみると、30歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、23.7%となっています。一方で、30歳代以外の年代では「あてはまらない」が50%を超えています。



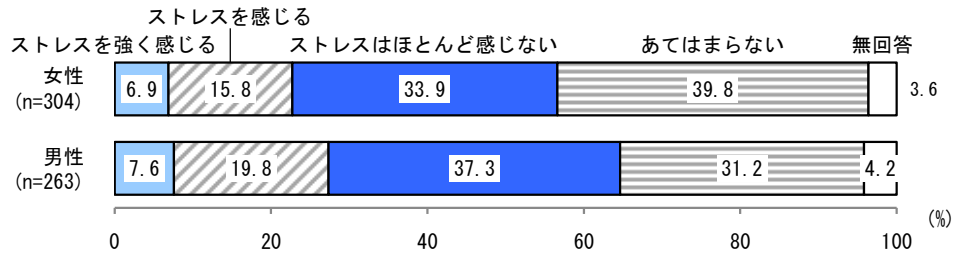
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「ストレスを感じる」の割合が5.9ポイント高くなっている一方で、「あてはまらない」の割合は8.7ポイント低くなっています。

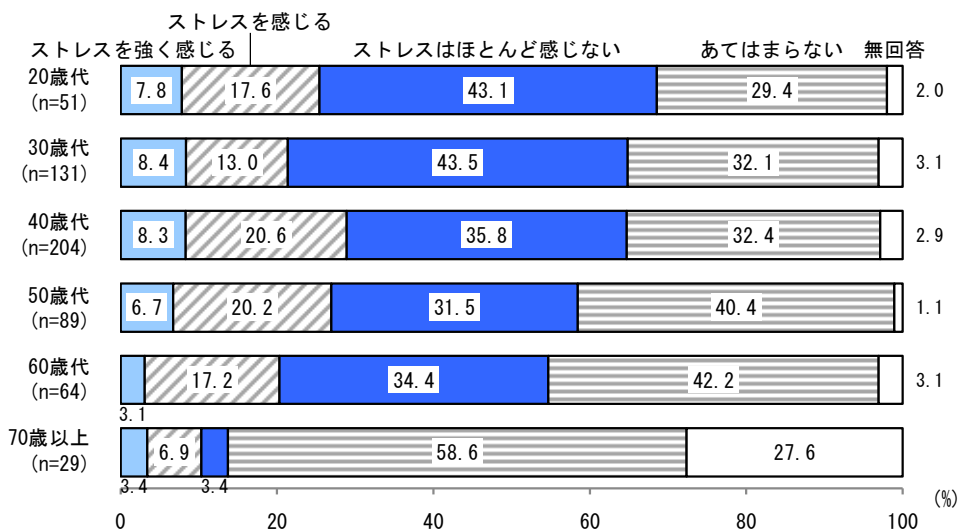


<⑧休みが十分にとれない>

・性別にみると、女性は男性よりも「あてはまらない」の割合が8.6ポイント高くなっています。

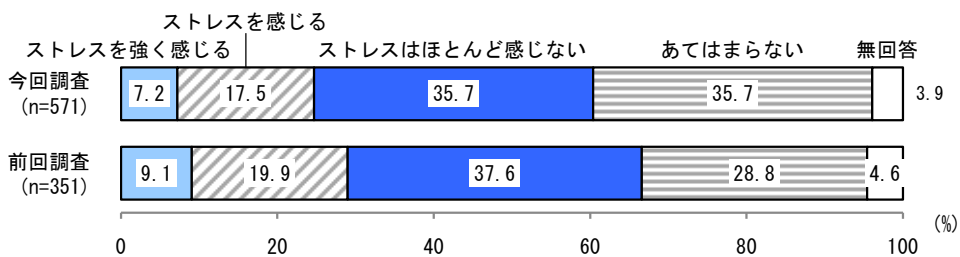


・年代別にみると、40歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、28.9%となっています。また、概ね若い年代ほど「ストレスはほとんど感じない」の割合が高く、20～30歳代では40%を超えています。



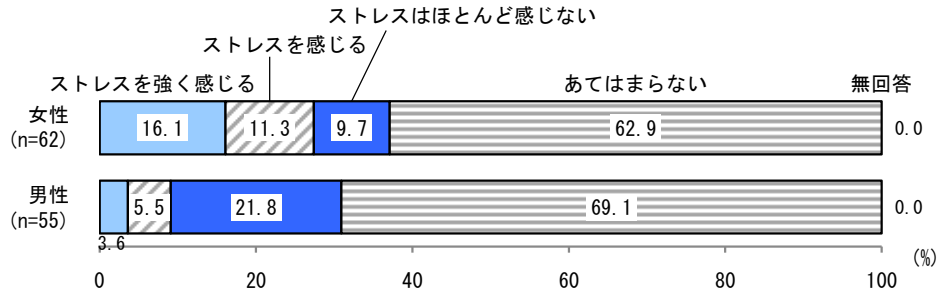
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「あてはまらない」の割合が6.9ポイント高くなっています。



<◎その他>

・性別にみると、女性は男性よりも『ストレスを感じる』の割合が18.3ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「ストレスはほとんど感じない」の割合が12.1ポイント高く、「あてはまらない」の割合が6.2ポイント高くなっています。



※「◎その他」については、無回答の方が女性で79.6%、男性で79.1%を占めているため、見やすさを考慮して「無回答」を含めずにグラフを作成しております。

・「⑨その他」のうち、詳細については22件の回答がありました。

※「特になし」3件を除く。

<意見グループ一覧>

1	職場の環境	9件
2	給料の低さ	3件
3	通勤時間	3件
4	家庭の事情	2件
5	転職	1件
6	将来への不安	1件
7	慣れないことをすることに対して	1件
8	物価高	1件
9	社外の人間関係	1件

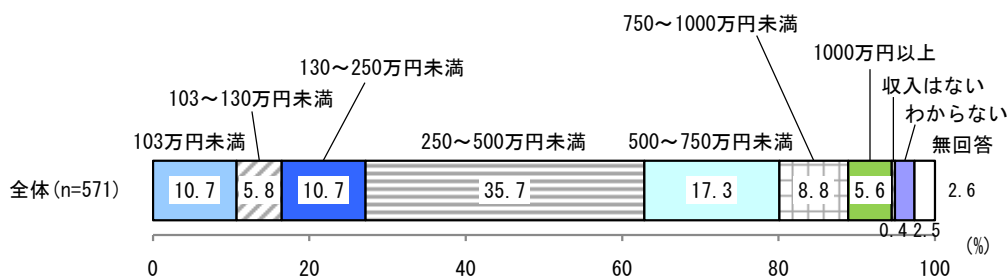
<自由意見 回答一覧>

1	女性	30歳代	女性だけ30分前に来て掃除をしなくてはいけない。
	女性	30歳代	非常勤なのに正職員並みの業務量。
	男性	30歳代	在宅勤務できない
	女性	40歳代	持ち帰りの仕事を強要される
	女性	40歳代	人件費削減とやらで人員減って仕事が増えた。不足なのに募集がない。代替りの人員がない。
	女性	40歳代	休日でも電話やメール対応を求められ、罰則があることが強く疑問を感じる。
	女性	50歳代	人手不足
	女性	50歳代	有給があるのに会社が取らせてくれない。
	男性	70歳以上	自営業の為。
2	女性	40歳代	103万未満という制限で収入が少ない。
	女性	50歳代	必要額に満たないため休めない。
	女性	50歳代	給料の低さ。
3	女性	30歳代	短時間勤務のままでは異動が難しい。
	女性	40歳代	通勤時間
	男性	60歳代	通勤時間が長い。
4	女性	20歳代	妊娠、子供が産まれると、働きづらい。
	女性	40歳代	同居している両親
5	男性	60歳代	そろそろ違う仕事をしたい。
6	女性	30歳代	10年先、20年先同じ仕事をしているのか先の心配(事務職の為)。
7	女性	40歳代	慣れない事。
8	男性	30歳代	物価高に対する支援が手薄。
9	男性	30歳代	客先、社外の人間関係

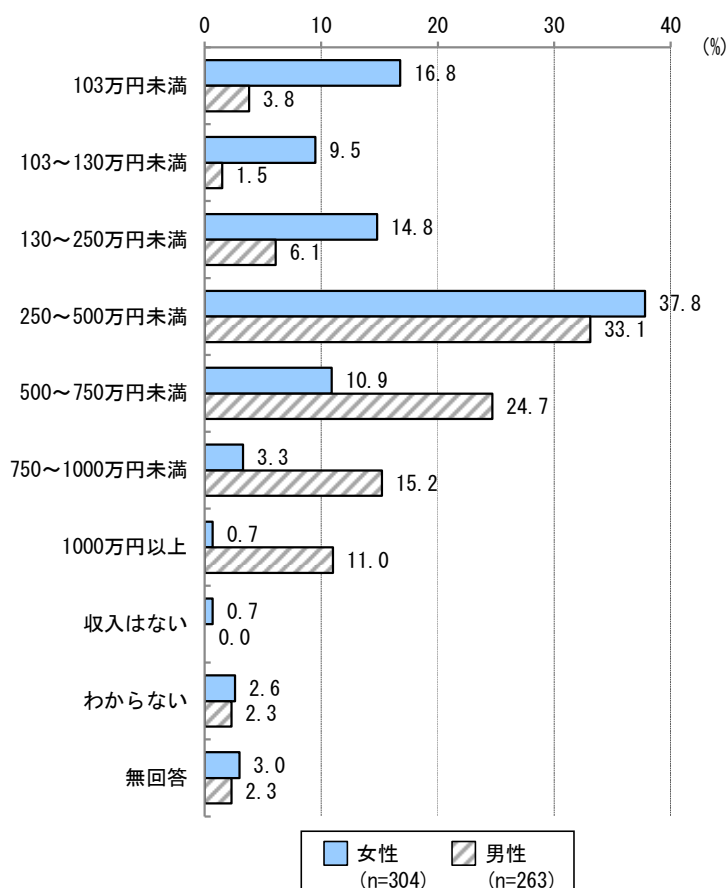
問7 令和4年中の年間収入

問7 あなたご自身の令和4年中の年間収入(税込)はどのくらいですか。年金や資産収入などすべての収入を含めた額をお答えください。(〇は1つ)

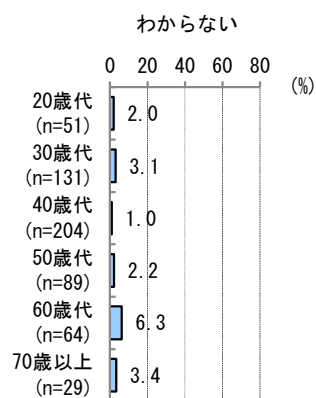
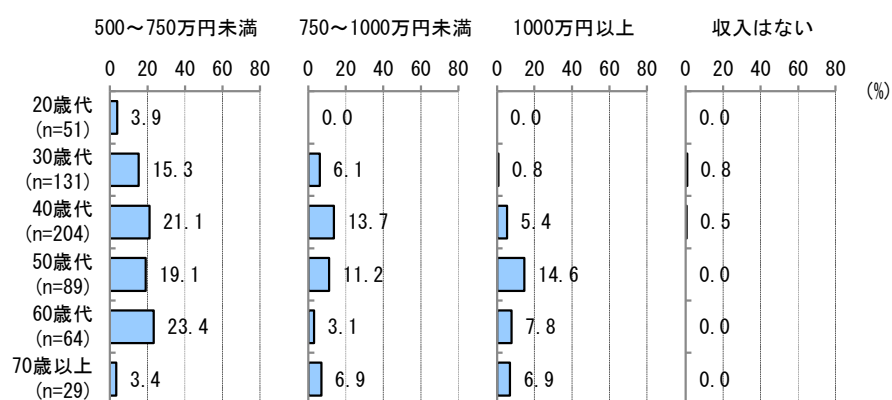
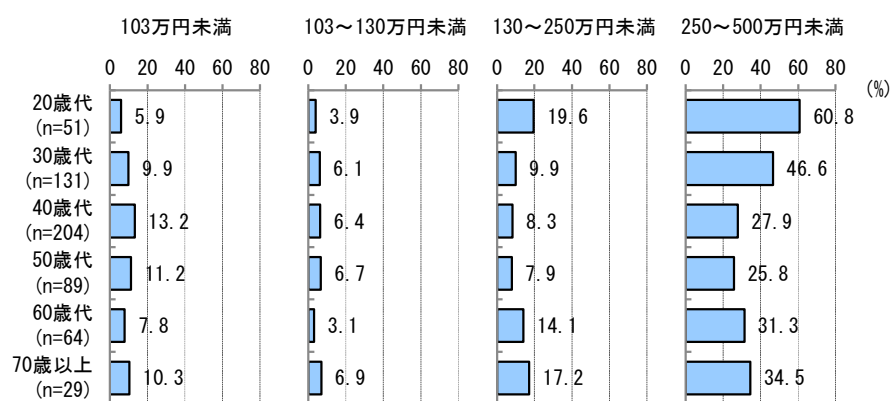
・令和4年中の年間収入については、「250～500万円未満」が35.7%と最も高く、次いで「500～750万円未満」が17.3%、「103万円未満」と「130～250万円未満」がともに10.7%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも年間収入が低い傾向にあり、「103万円未満」の割合が13.0ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも年間収入が高い傾向にあり、「500～700万円未満」の割合が13.8ポイント高くなっています。



・年代別にみると、全ての年代で「250～500万円未満」の割合が高く、20歳代では60.8%となっています。

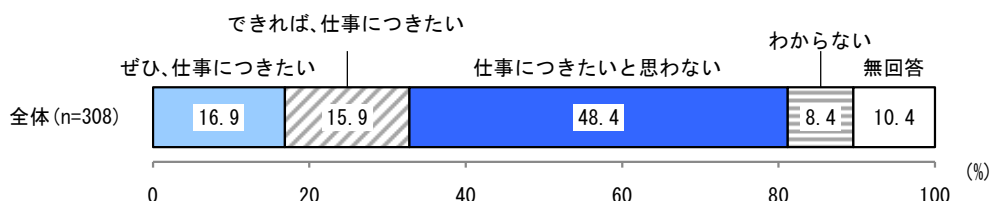


問8 今後、収入を得る仕事につきたいと思うか

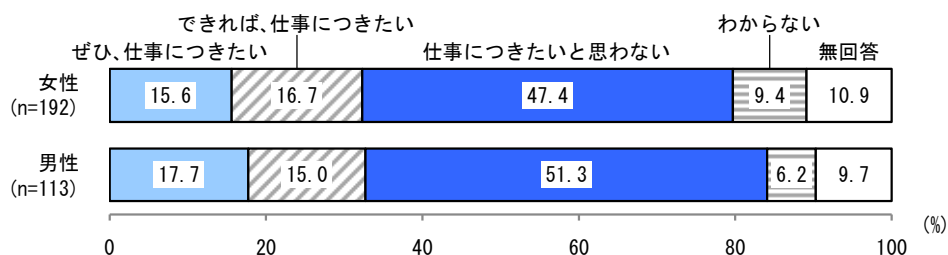
【問8と問8-1は、問4の①で「5.専業主婦・主夫」「6.学生」「7.年金生活」「8.無職(専業主婦・主夫を除く)」と答えた方におたずねします。】

問8 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

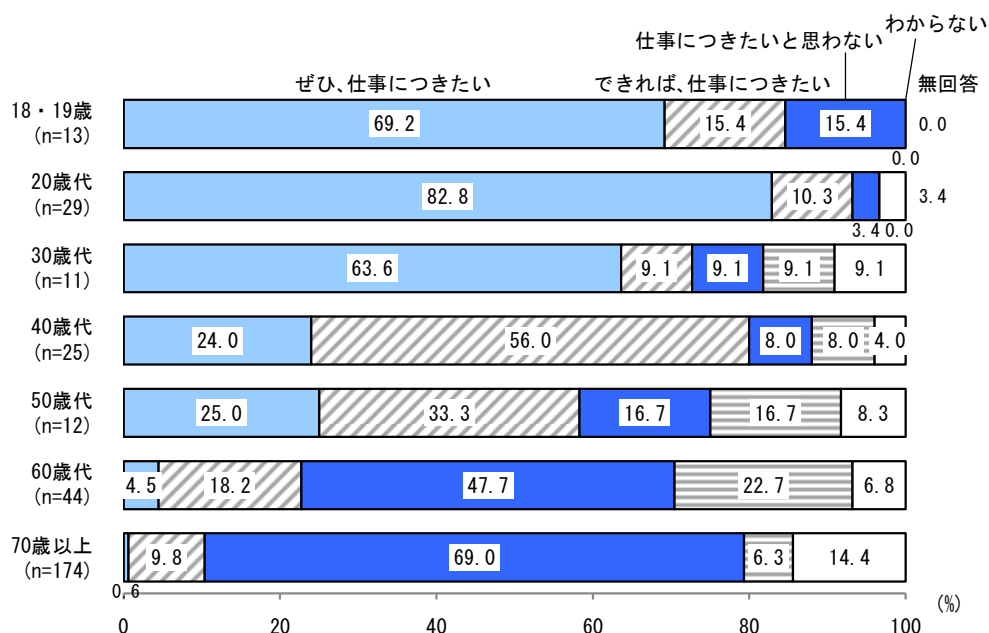
・今後、収入を得る仕事につきたいと思うかについては、「仕事につきたいと思わない」が48.4%と最も高く、次いで「ぜひ、仕事につきたい」が16.9%、「できれば、仕事につきたい」が15.9%となっています。



・性別による大きな差はありません。

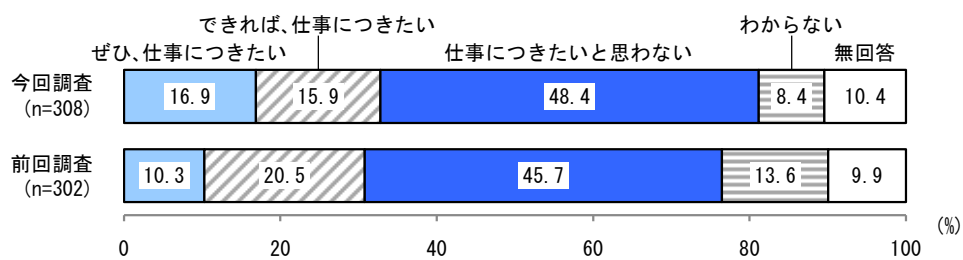


・年代別にみると、概ね若い年代ほど「ぜひ、仕事につきたい」の割合が高い一方で、年代が上がるほど「仕事につきたいと思わない」の割合が高くなっています。



◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「ぜひ仕事につきたい」の割合が6.6ポイント高くなっています。

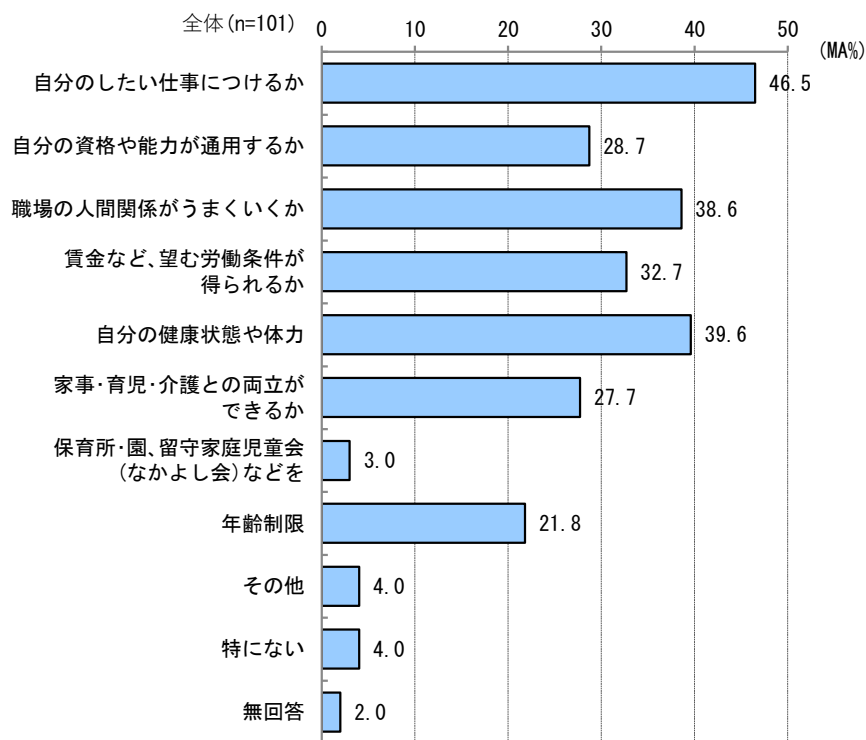


問8-1 今後、仕事につく上で困ったことや不安があるか

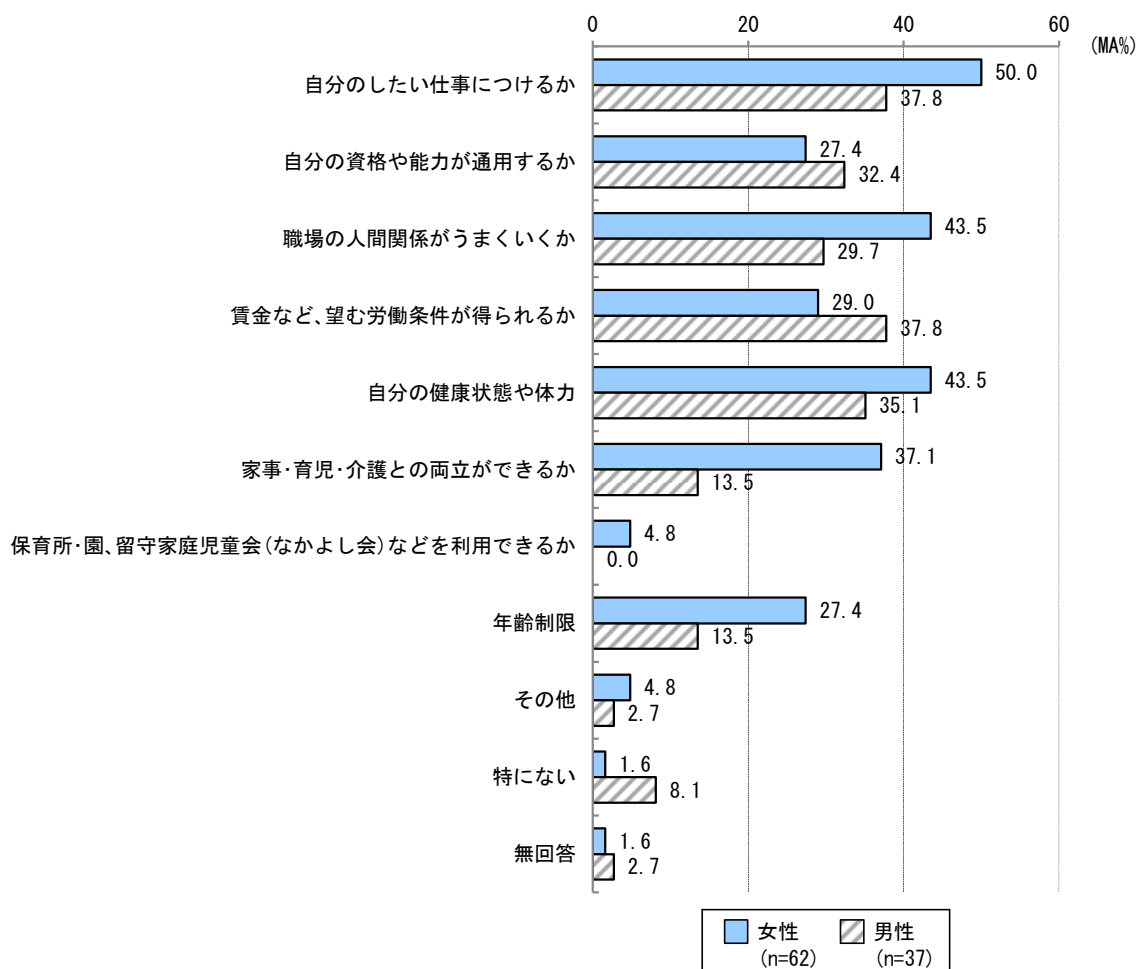
【問8で、「1.ぜひ仕事につきたい」「2.できれば、仕事につきたい」と答えた方におたずねします。】

問8-1 あなたには、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。(〇はいくつでも)

・今後、仕事につく上で困ったことや不安があるかについては、「自分のしたい仕事につけるか」が46.5%と最も高く、次いで「自分の健康状態や体力」が39.6%、「職場の人間関係がうまくいくか」が38.6%となっています。



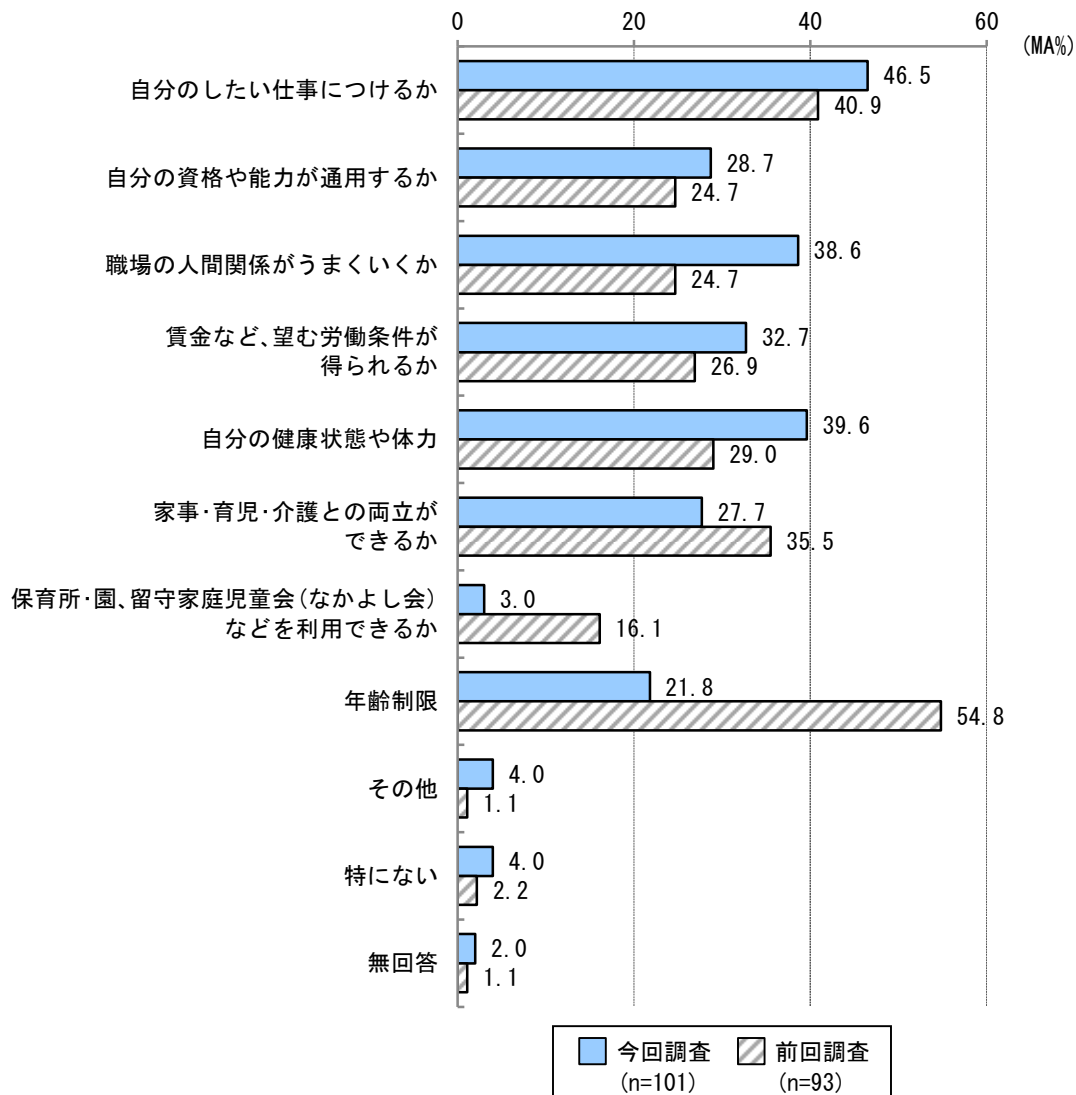
・性別にみると、ほとんどの項目で男女間に5.0ポイント以上の差があり、特に「家事・育児・介護との両立ができるか」の割合で女性が男性より23.6ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「賃金など、望む労働条件が得られるか」の割合が8.8ポイント高くなっています。



◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「職場の人間関係がうまくいくか」の割合が13.9ポイント、「自分の健康状態や体力」の割合が10.6ポイント、「賃金など、望む労働条件が得られるか」の割合が5.8ポイント、「自分のしたい仕事につけるか」の割合が5.6ポイント高くなっています。

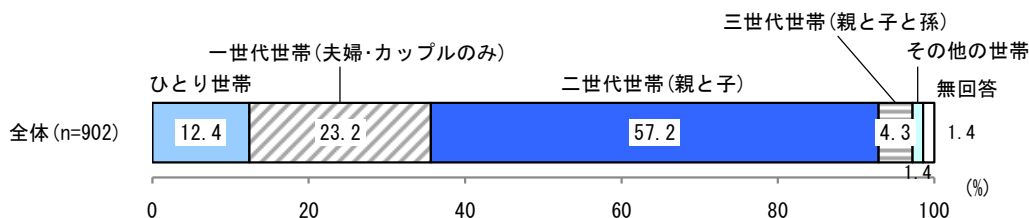
・また、「家事・育児・介護との両立ができるか」の割合が7.8ポイント、「保育所・園、留守家庭児童会(なかよし会)などを利用できるか」の割合が13.1ポイント、「年齢制限」の割合が33.0ポイント低くなっています。



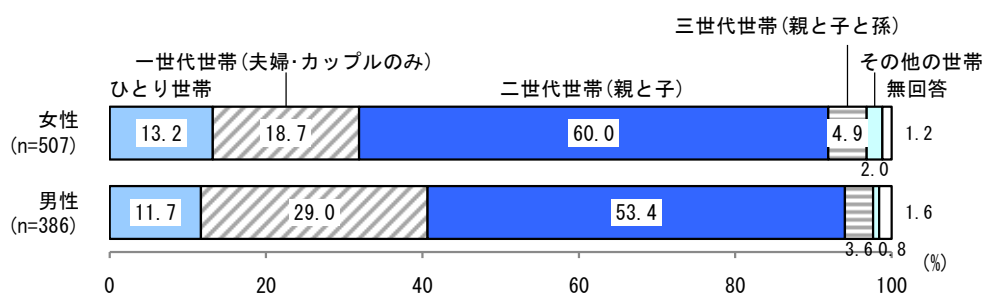
問9 家族構成

問9 あなたの家族構成は次のどれですか。(○は1つ)

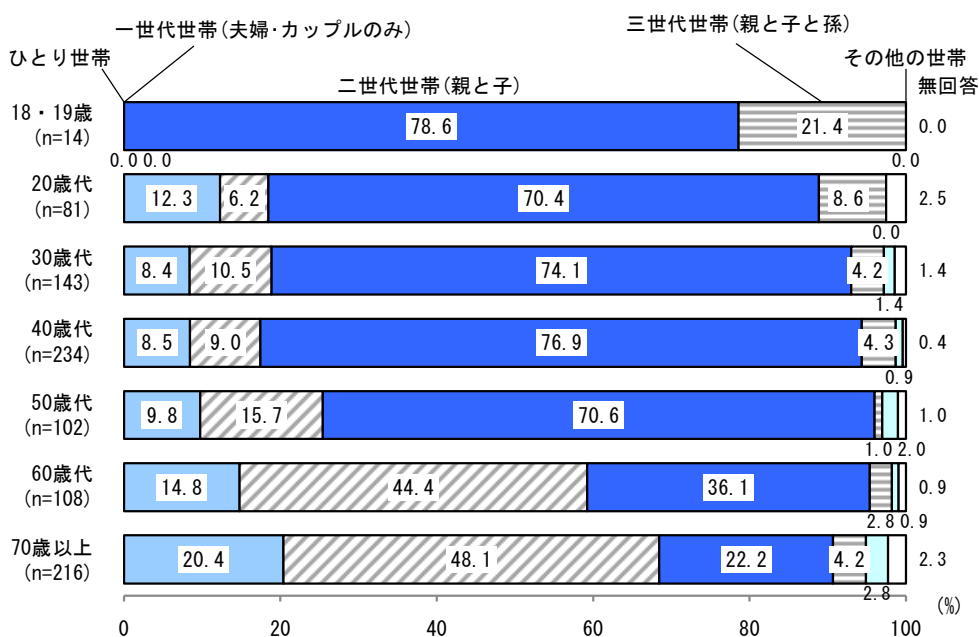
・家族構成については、「二世世代世帯(親と子)」が57.2%と最も高く、次いで「一世世代世帯(夫婦・カップルのみ)」が23.2%、「ひとり世帯」が12.4%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「二世世代世帯(親と子)」の割合が6.6ポイント高く、男性は女性よりも「一世世代世帯(夫婦・カップルのみ)」の割合が10.3ポイント高くなっています。



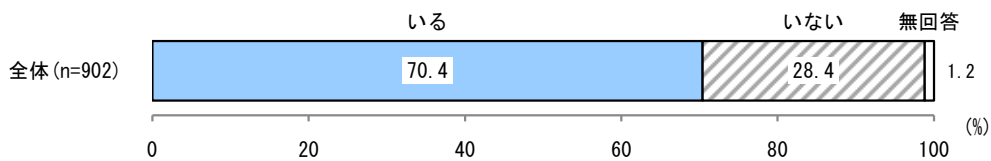
・年代別にみると、概ね若い年代ほど「二世世代世帯(親と子)」の割合が高い一方で、年代が上がるほど「ひとり世帯」と「一世世代世帯(夫婦・カップルのみ)」の割合が高くなっています。



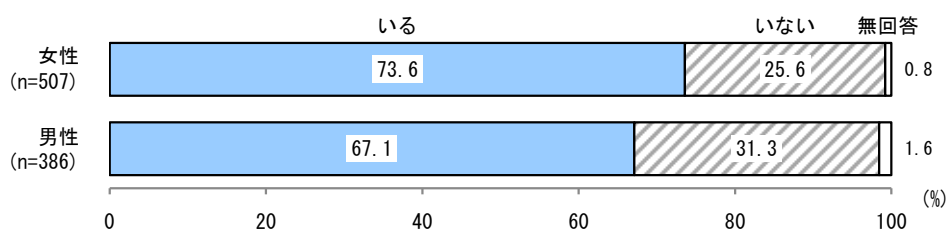
問10 お子さんの有無

問10 あなたにはお子さんがおられますか。(○は1つ)

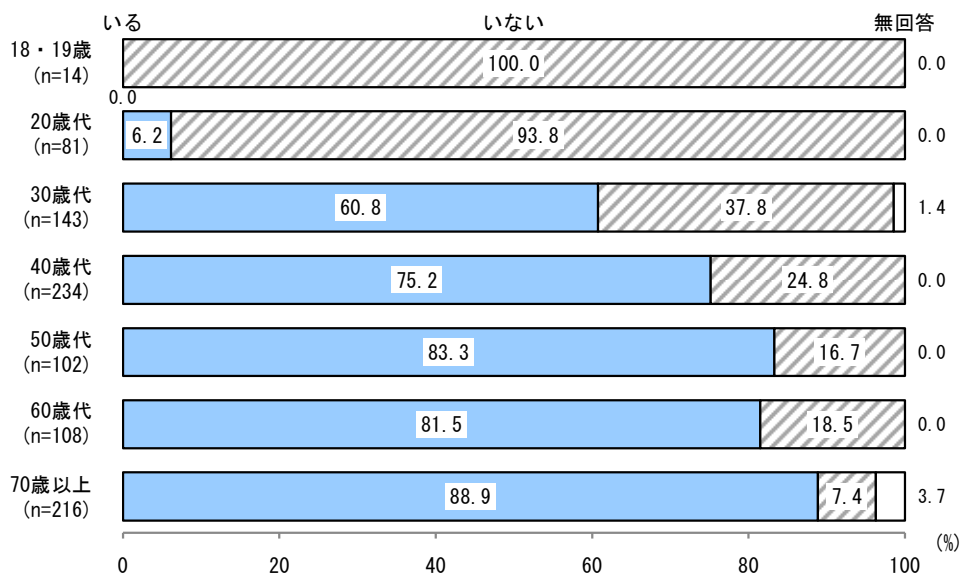
・お子さんの有無については、「いる」が70.4%と最も高く、次いで「いない」が28.4%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「いる」の割合が6.5%ポイント高く、男性は女性よりも「いない」の回答が5.7%ポイント高くなっています。



・年代別にみると、概ね年代が上がるほどお子さんが「いる」割合も高くなっています。

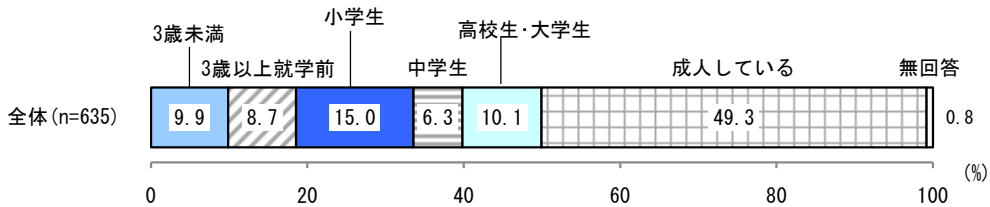


問11 一番下のお子さんについて

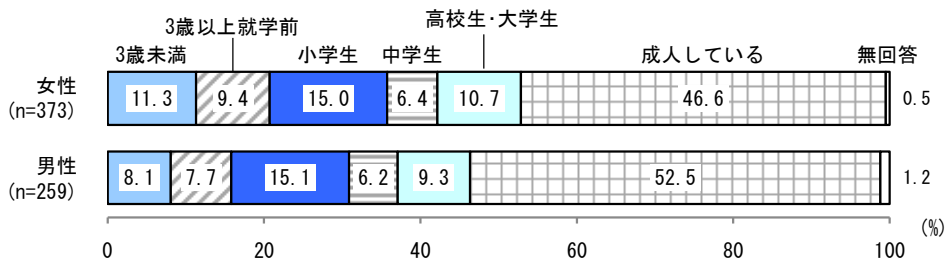
【問10で、「1.いる」と答えた方におたずねします。】

問11 一番下のお子さんは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

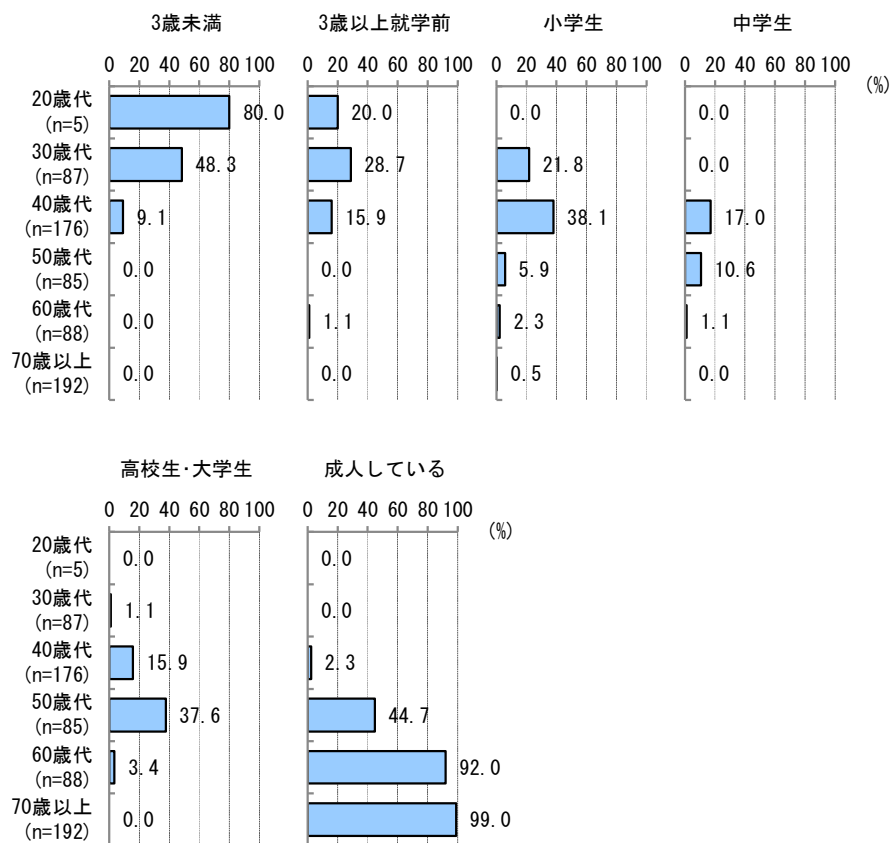
・一番下のお子さんについては、「成人している」が49.3%と最も高く、次いで「小学生」が15.0%、「高校生・大学生」が10.1%となっています。



・性別にみると、男性は女性よりも「成人している」の割合が5.9ポイント高くなっています。



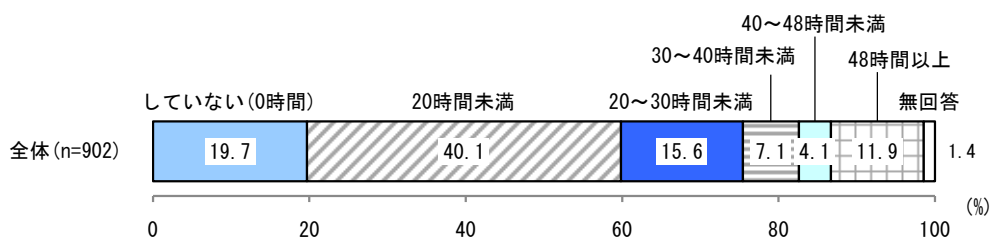
・年代別にみると、30歳代で「3歳未満」と「3歳以上就学前」、「小学生」の割合が、40歳代で「小学生」と「中学生」、「高校生・大学生」の割合が、50歳代で「中学生」と「高校生・大学生」、「成人している」の割合が、60～70歳以上で「成人している」の割合が高くなっています。



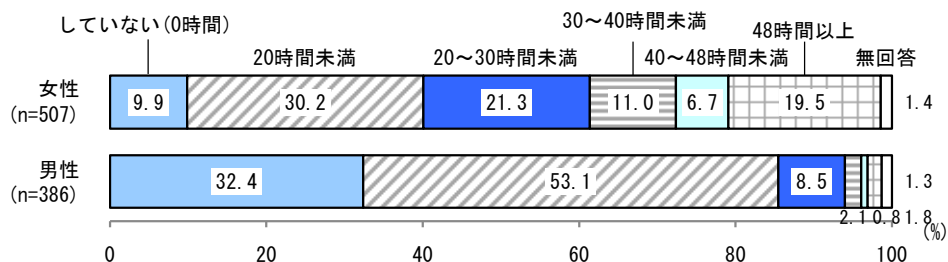
問12 1週間のうちで、家事・育児・介護等をしている平均時間について

問12 1週間のうちで、あなたが家事・育児・介護等をしている平均時間はどのくらいですか。(○は1つ)

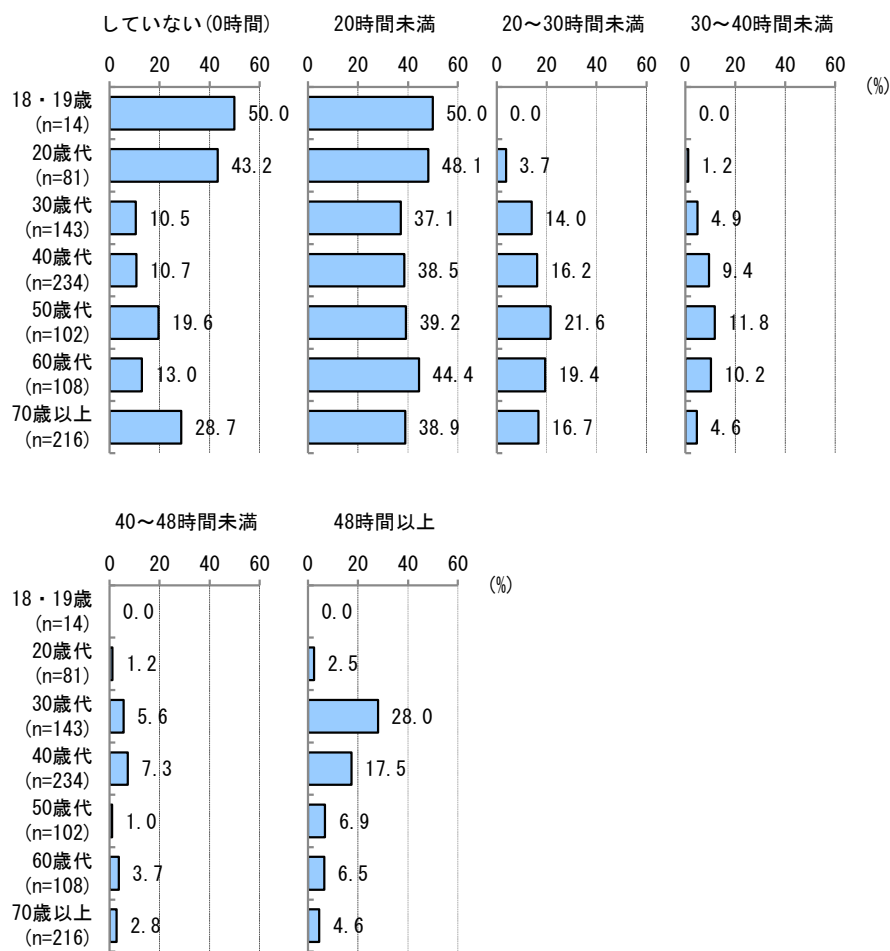
・1週間のうちで、家事・育児・介護等をしている平均時間については、「20時間未満」が40.1%と最も高く、次いで「していない(0時間)」が19.7%、「20～30時間未満」が15.6%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも家事・育児・介護等をしている平均時間が長い傾向にあり、「48時間以上」の割合が17.7ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも平均時間が短い傾向にあり、「していない(0時間)」の割合が22.5ポイント、「20時間未満」の割合が22.9ポイント高くなっています。



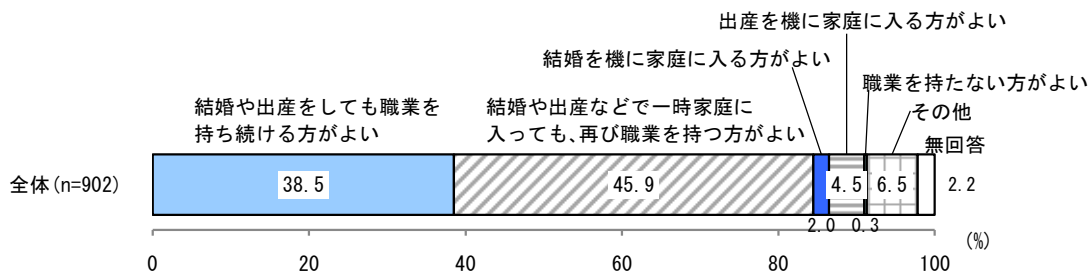
・年代別にみると、全ての年代で「20時間未満」が最も高くなっています。また、18・19歳、20歳代、70歳以上で「していない(0時間)」の割合が他の年代より高い一方で、30～40歳代で「48時間以上」が他の年代より高くなっています。



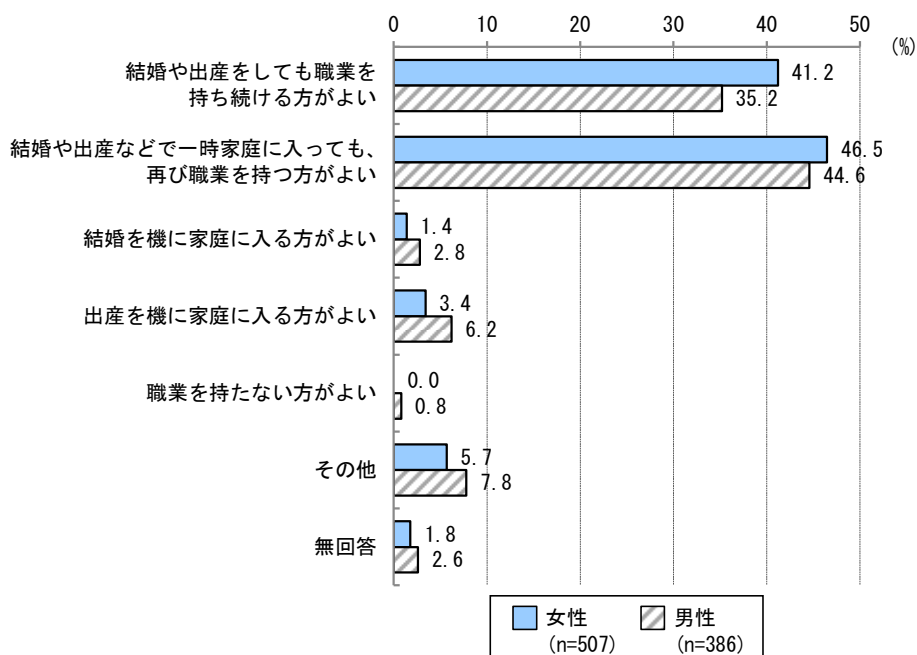
問13 女性の職業と生活設計について

問13 女性の職業と生活設計について、次のどれが望ましいと思いますか。(〇は1つ)

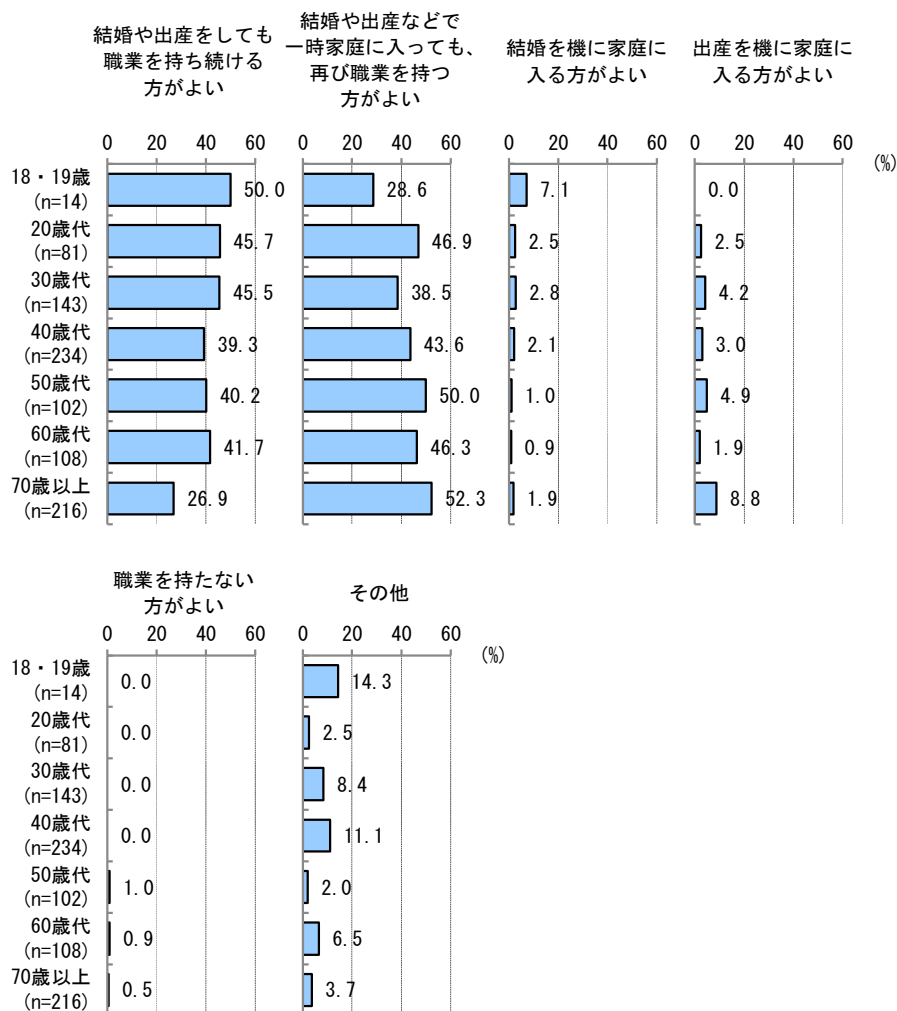
・女性の職業と生活設計については、「結婚や出産などで一時家庭に入っても、再び職業を持つ方がよい」が45.9%と最も高く、次いで「結婚や出産をしても職業を持ち続ける方がよい」が38.5%、「出産を機に家庭に入る方がよい」が4.5%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「結婚や出産をしても職業を持ち続ける方がよい」の割合が6.0ポイント高くなっています。



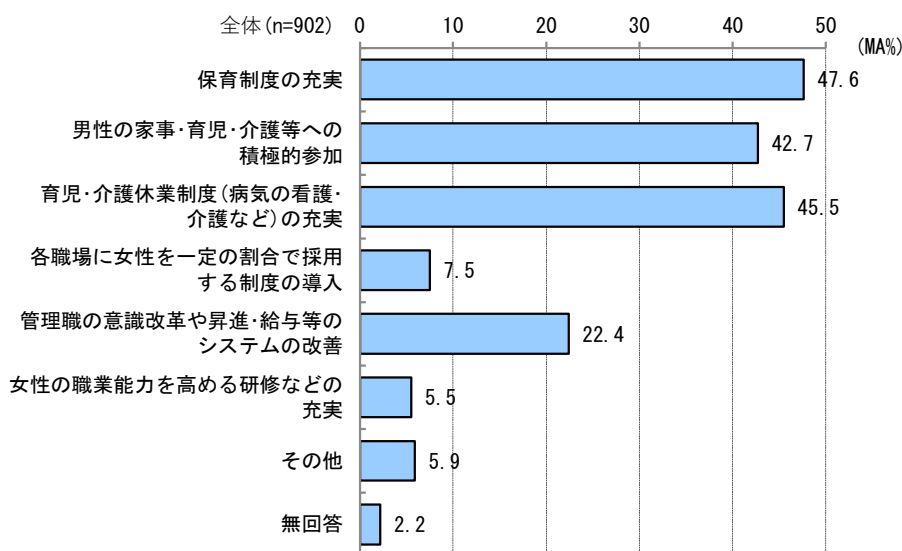
・年代別にみると、全ての年代で結婚後も職業を持つことに肯定的な選択肢(「結婚や出産をしても職業を持ち続ける方がよい」と「結婚や出産などで一時家庭に入っても、再び職業を持つ方がよい」)の割合が高い一方で、70歳以上で「出産を機に家庭に入る方がよい」の割合が8.8%と他の年代より高くなっています。



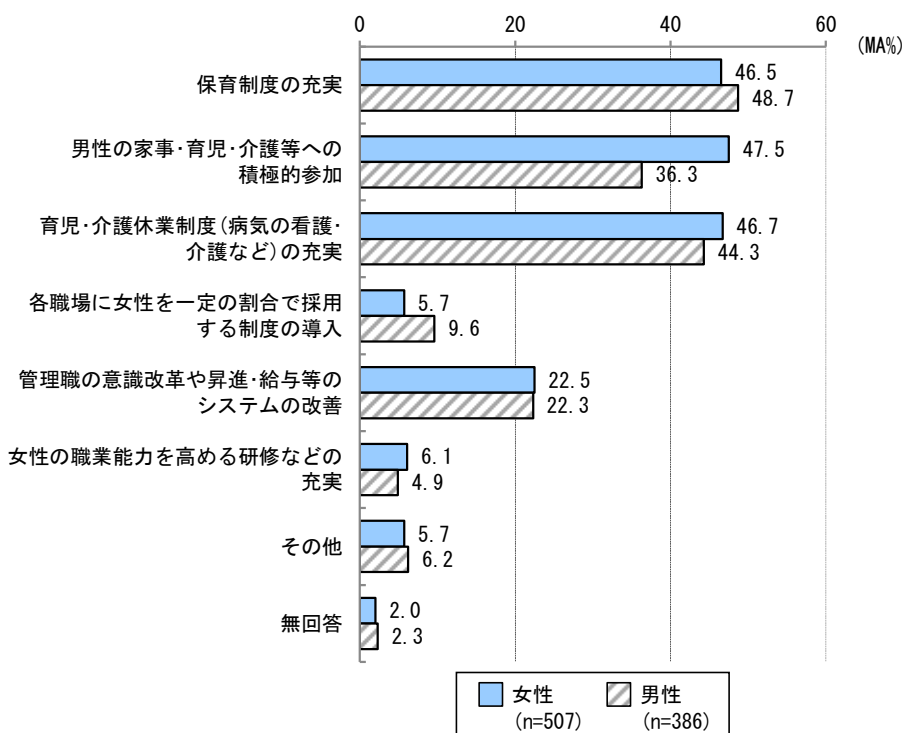
問14 現在の社会で女性が働き続けるために必要なこと

問14 現在の社会で、女性が働き続けるためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。
(〇は2つまで)

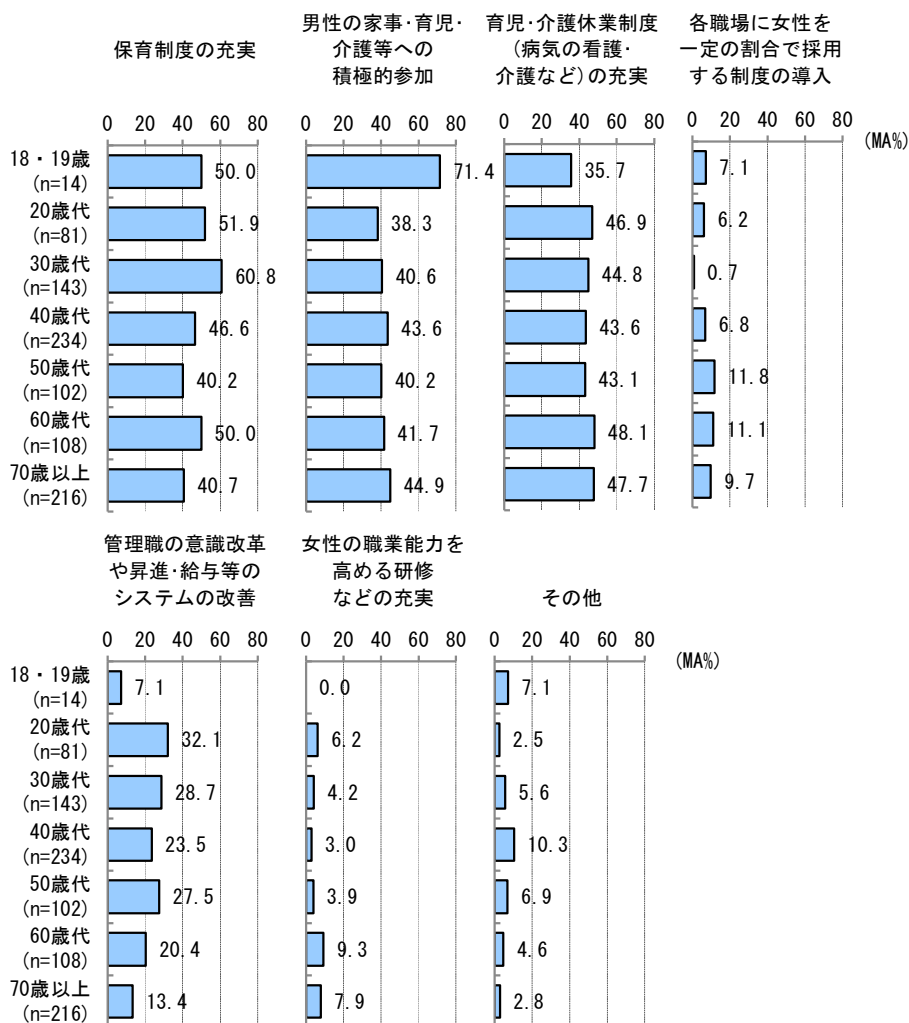
・現在の社会で女性が働き続けるために必要なことについては、「保育制度の充実」が47.6%と最も高く、次いで「育児・介護休業制度(病気の看護・介護など)の充実」が45.5%、「男性の家事・育児・介護等への積極的参加」が42.7%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「男性の家事・育児・介護等への積極的参加」の割合が11.2ポイント高くなっています。



・年代別にみると、全ての年代で「保育制度の充実」、「男性の家事・育児・介護等への積極的参加」、「育児・介護休業制度(病気の看護・介護など)の充実」の割合が35%を超えています。



◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、「男性の家事・育児・介護等への積極的参加」の割合が10.3ポイント、「管理職の意識改革や昇進・給与等のシステムの改善」の割合が6.8ポイント高く、「保育制度の充実」の割合が10.6ポイント低くなっています。

